



令和 8 年度

宮崎大学概要

UNIVERSITY OF MIYAZAKI 2026



世界を視野に、地域から始めよう

CONTENTS

令和8年度 宮崎大学概要

01	教育の特色
03	研究の特色
05	学部・別科・大学院
07	部局・附属施設等
11	地域貢献(産学官連携・地域人材育成)
13	国際交流・海外オフィス
14	資料編
47	キャンパスマップ

本学の理念

宮崎大学は「世界を視野に、地域から始めよう」をスローガンに、学術・芸術・文化およびスポーツを通じて、地域との協働により地方創生に貢献する高等教育機関です。

学生が主体的に創造力と行動力を養い向上できるよう奨励すると共に、変わりゆく世界情勢や新たな科学技術の進展にも対応できる人材を育成し、国際社会の発展と人類の福祉の向上に寄与します。

本学は、自然豊かな宮崎の利点を生かした教育・研究を取り入れ、持続可能で平和な未来社会の構築とDE&I*の観点からも平等な地域共生社会の実現を目指します。

* Diversity (多様性)、Equity (公平性)、Inclusion (包括性) の頭文字

シンボルマークについて

宮崎大学の頭文字「宮」をモチーフとして図案化し、さらにそれを擬人化したシンボルマークです。

白い丸は、だんだん拡大される宮崎大学のイメージをあらわし、緑色の中の二つの丸は、統合した宮崎大学と宮崎医科大学を象徴するものとしてデザインしました。

さらに、図形は、躍動する若人の姿と全体の円を地球としてとらえたグローバルにはばたく姿も表現しています。また、緑（グリーン）と青（ブルー）の2色は、自然豊かな宮崎の木々の緑と澄んだ空と海の青をイメージし、宮崎という地域にある本学のスクールカラーにふさわしい色として採用しました。



宮崎大学オリジナルキャラクター

平成23年5月、学内公募により誕生した、宮崎大学オリジナルキャラクター「みやだいまうくん」です。本学の英語表現である「University of Miyazaki」の頭文字「UoM」を逆から読んで「Mou（もう）」、この音が牛の鳴き声に似ていることが名前の由来です。宮崎大学を広くアピールするため、いろいろな場面で活躍しています。



みやだいまうくん

宮崎をリードし、知の拠点として 世界に貢献する大学を目指す



宮崎大学長
鮫島 浩

宮崎大学は5学部と7大学院研究科、3機構、さらに研究・教育センター等を有し、県内に木花キャンパス、清武キャンパス、錦本町ひなたキャンパス、5つの教育研究フィールドを持つ総合大学です。

スローガンは「世界を視野に、地域から始めよう」です。グローバルな視点でローカルな物事を考え、宮崎を活動の拠点とし、成果を広く世界に発信することを大切にしています。宮崎の人、自然、伝統、文化を愛し、同時に地元からも高く評価され、愛され、頼りにされる大学であり続けたいと考えています。併せて、地域に貢献し、地域を主導できる若手人材を育成し、地域の問題を科学的・文化的に解決する知の拠点として発展し続けています。

宮崎大学未来Vision for 2040では、「未来を創る 世界を照らす宮崎大学」という標語を掲げました。副題は「さあ、型破りな挑戦の舞台へ」です。未来を創るのは若者であり、彼らの型破りな挑戦を支援し、世界を照らすような活動へと繋げて欲しいと思います。

そのために本学では、学生目線を大切にし、学生の主体性、自律性、創造性を十分に発揮できる環境を整備し、学問の自由を確保しています。学生自身が自発的に勉学や研究、芸術やスポーツに取り組み、自らの研究や日本文化を発信すること、そして宮崎大学で養ったソフトパワーを活用して国内外で貢献することを目標としています。学生が本大学で学んで良かったと思えるよう、教職員も一緒に活動しています。

宮崎大学は、このようなスローガン、理念、未来ビジョンをもとに、社会と時代の要請に応じて着実に変革を進めています。そして教職員と学生が一丸となり、今後も世界を美しく照らし続ける大学でありたいと願っています。

宮崎大学未来Vision for 2040【Ver.2025】

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/guide/futurevision/>



本ビジョンは、人口減少や技術革新等への対応が急務となる中、地域を牽引し持続可能な社会に貢献するため、「育む」「拓く」「紡ぐ」「築く」の4つの基本方針と16の戦略を策定したものです。本学の目的・使命、これまでの実績・成果に加え、教職員や多くのステークホルダーの声を踏まえ、本学が進むべき方向を示しています。

錦本町ひなたキャンパス

令和7年4月に宮崎市中心街に開設した「錦本町ひなたキャンパス」は、新たな価値と社会問題の解決を目指す共創の場です。「多様な混ざり合いにより未来を描き、様々な共創によりその未来を実現する場所」をコンセプトに、本学が有する多様な“知”を社会へ還元・発信する拠点として、教育・研究の更なる発展と地域の活性化に貢献しています。



教育の特色

地域で育てるグローバルな人材

「世界を視野に、地域から始めよう」のスローガンのもと、宮崎大学では、地域をフィールドにして培った課題解決能力と実践的な語学力をそなえ、グローバルな視野で主体的に活躍できる人材を育てようとしています。このような人材を育成するために、学部段階の教育では教養教育と専門教育とが連続して展開されるように学士課程一貫の教育カリキュラムを構築しています。

教養教育における「導入科目」は、「大学教育入門セミナー」、「情報・データリテラシー」、「英語」、「専門接続系」の区分で構成し、大学で学ぶための心構えや自己の所属する教育課程の理解、高度情報化時代に対応できる情報処理能力、外国語コミュニケーション能力と専門教育において必要とされる英語運用能力、及び専門教育において必要とされる知識・技能を育成します。

「課題発見科目」は、「データサイエンス系」、「人文・社会・芸術系」、「自然・生命・技術系」、「地域・国際・学際系」の区分で構成され、大学の第4期中期目標「特定の専攻分野を通じて課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する」を達成するため、及びSTEAM教育プログラムを構築する上で中核となる科目群となっています。

「未来共創科目」は、「構想・デザイン系」と「協働・創造系」の区分で構成され、SPARCプログラムの中核となる科目群で、地域や世界を見る目や幅広く長期的な視点で社会課題に向き合う態度、及び地域をフィールドに様々なステークホルダーと連携したPBL（プロジェクト ベースラーニング）やアントレプレナーシップを通じて、学生同士だけではなく社会人や地域住民等と協働・共創する力、企業内・地域内の具体的な課題の解決策を提示する力を育成します。

異分野融合による教育

本学の教育の特色のひとつは、異なった分野の知識・視点・方法等を融合させることによって、新たな教育を展開している点にあります。平成28年度に新設された地域資源創成学部においては、マネジメントに関

する専門知識と、社会・人文科学及び農学・工学分野の利活用技術の基礎知識によって編成された異分野融合のカリキュラムが構築され、ここでは単に地域を教育研究のフィールドとするだけでなく、地域の人々との協働教育や全県規模でのインターンシップ教育も実施しています。

大学院では、研究科ごとに特徴ある高度専門職業人の養成をめざした教育プログラムが用意されており、特に博士課程においては、農学と工学が融合した農学工学総合研究科（博士後期課程）、医学と獣医学が融合した医学獣医学総合研究科（平成26年度からは修士課程を併設）が、それぞれ全国に先駆けて創設されました。教職大学院（教職実践開発専攻）では、各教科等の領域が融合したカリキュラムが編成されています。

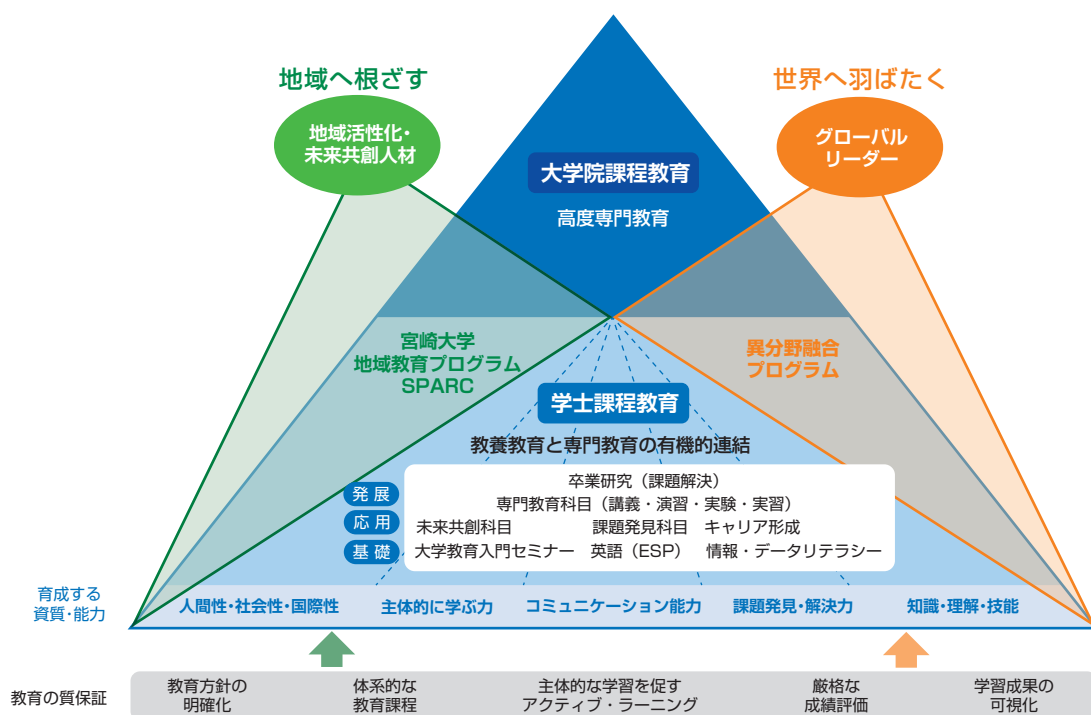
このように、旧来の縦割りの学問分野による教育ではなく、これまで領域を異にしていた分野を新たに融合させることによって、相互の研究や教育の質を向上させ、なおかつ、これまで手の届きにくかった融合領域に関して新たな研究成果や教育効果をもたらしています。異分野融合による教育・研究の成果は各学部の専門教育にも着実に活かされ、グローバルな人材を地域で育てるという本学のスローガンを実質的に支えています。

自立性を育てる学習環境の整備

サークル活動やボランティア活動、海外研修留学など、正規のカリキュラム以外での活動を通してさまざまな資質・能力を磨くことや、自己と社会との関わりについて考えを深めることも大学教育の重要なねらいのひとつです。本学では、学生のアイデアをビジネスプランとして練り上げる事業計画書（ビジネスプラン）とプレゼン力を審査する「宮崎・学生ビジネスプランコンテスト」を実施しており、学生の持つ問題意識や発想力、構想力、研究成果を活かしたチャレンジを支援しています。

また、ラーニングコモンズ等の自主学習の環境を整備しており、それらを利用した学生たち自身による自主的・自発的な学習活動も増えています。このように、本学では、自ら考え、行動できる自立した人材を育成するために自由に学ぶという理念に支えられた「学びやすい環境」を準備できるように取り組んでいます。

本学における学士・大学院教育の概念図



教育理念

宮崎大学は、「世界を視野に、地域から始めよう」のスローガンのもとに、人類の英知の結晶としての学術・文化に関する知的遺産の継承と発展、深奥なる学理の探究、地球環境の保全と学際的な生命科学の創造を目指し、変動する社会の多様な要請に応え得る人材を育成することを教育の理念として掲げています。本学では、これらの理念を具現化するために、以下の教育目標を掲げ充実した教育に取り組んでいます。

1. 人間性の教育

高い倫理性と責任感を育むとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。

2. 社会性・国際性の教育

地球規模の視野に立ち、社会の多様な要請に対応して、柔軟で論理的な思考力をもって、社会の発展に積極的に貢献できる社会性・国際性を涵養する。

3. 専門性の教育

新たな知の創造につながる専門教育を実施し、獲得した知識・技能を総合的に活用して、自ら発見した課題に適用し、解決する創造的思考力や態度を育成する。

宮崎大学の教育プロジェクト（令和8年7月現在）

教育プログラム採択状況等			
大学教育再生戦略推進費 ※1		期間	学部等
新しい価値を創造し持続可能な地域づくりを牽引する『多様な未来共創人材』の育成プログラム	地域活性化人材育成事業～ SPARC ～	2022.4～2028.3	全学
地方と都市の地域特性を補完して地域枠と連動しながら広がる医師養成モデル事業 ～ KANEHIROプログラム：病気を診ずして病人を診よ～	ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業	2022.4～2029.3	医学部
米国等との大学間交流形成支援	大学の世界展開力強化事業	2023.9～2028.3	全学
世界を視野に宮崎で拍動する循環器臨床研究プラットフォーム構築と連動した高度臨床研究医養成事業	高度医療人材養成拠点形成事業 (高度な臨床・研究能力を有する医師養成促進支援)	2024.8～2029.3	医学部

※1 中央教育審議会等で提言された政策課題に特化した誘導型の補助金であり、1.世界に誇れるトップレベルの教育研究活動を実践する大学の機能を飛躍的に高め、世界に発信していくことで、我が国の高等教育・学術研究のプレゼンス向上を図る事業、2.大学における革新的・先導的教育研究プログラムを開発・実施する取組や、迅速に実現すべきシステム改革を支援・普及することで、大学教育の充実と質の向上を図る事業を重点的に支援する。

JACME（ジャクミー） ※2	認定分野	期 間
医学部 医学科	医学教育分野	2026.6～2033.5

※2 日本医学教育評価機構。これに認定された教育プログラムは、医学教育の充実、向上を図り、我が国の保健、医療、福祉、衛生、並びに国際保健に貢献するために、必要な知識や能力の養成に成功していると国際的見地から評価されたこととなります。

JABEE（ジャビー） ※3	認定分野	期 間
工学部 工学科 土木環境プログラム (2020年度以前の入学生は、社会環境システム工学科/2024年度以前の入学生は、土木環境工学プログラム)	土木及び関連の工学分野	2004.4～2027.3
工学部 工学科 半導体サイエンスプログラム (2020年度以前の入学生は、電子物理工学科/2024年度以前の入学生は、応用物理工学プログラム)	物理・応用物理学及び関連のエンジニアリング分野	2017.4～2029.3
工学部 電気システム工学科	電気・電子及び関連の工学分野	2004.4～2027.3

※3 日本技術者教育認定機構。これに認定された教育プログラムは、教育活動の品質が国際的レベルにあることや、技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力の養成に成功していると評価されたこととなります。

教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 ※4	期 間	学部等
宮崎大学データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシー）	リテラシーレベル	2022.4～2027.3	全学
	(リテラシーレベル) プラス	2022.4～2027.3	全学
宮崎大学データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎）	応用基礎レベル※5	2023.4～2028.3	全学
	(応用基礎レベル) プラス	2024.4～2028.3	全学

※4 学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力（リテラシーレベル）や、課題を解決するための実践的な能力（応用基礎レベル）を育成するため、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行う大学等の正規の課程（教育プログラム）を文部科学大臣が認定及び選定して奨励する制度

※5 工学部用の教育プログラムは2022年4月から認定されている。

大学・高専機能強化支援事業 ※6	期 間	学部等
社会実装力・異分野融合力を有する高度情報専門人材育成「先端情報コース」新設と先端IT人材の地元定着	成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援（支援2）	2023.4～2033.3 工学研究科

※6 意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革に予見可能性をもって踏み切れるよう、機動的かつ継続的な支援を行い、デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に資することを目的とした文部科学省の基金。

研究の特色

宮崎大学は持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に資する取り組みを推進しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

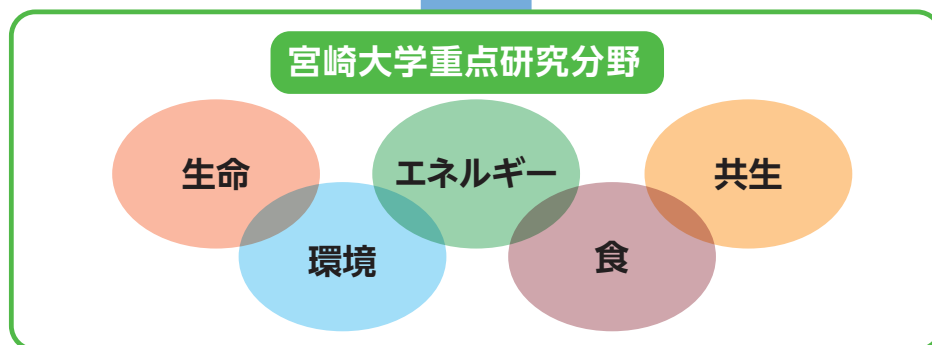


本学の強みである「生命・環境・エネルギー・食・共生」の各分野を横断した研究を推進

宮崎大学では、人類・社会の持続的発展、また、地域産業・地域経済の発展に寄与するため、「地域共生社会の実現に向けた研究の推進と社会実装」を全学的研究ミッションと位置付け、本学の強み、特色である「生命・環境・エネルギー・食・共生」の重点研究分野を横断させた3つの研究の柱を軸に研究プロジェクトを積極的に推進し、地域を始め多様な分野の課題解決に貢献するとともに、SDGsに掲げられている地球規模の課題解決に繋がる研究により、持続可能な開発目標の達成に貢献します。

全学的研究ミッション

「地域共生社会の実現に向けた研究の推進と社会実装」



第4期中期目標期間中に特に推進する3つの研究の柱

- 健康寿命日本一に向けた異分野融合研究
- 持続可能な社会を目指した次世代産業の創出
- 多様性を重視した地域社会の基盤構築

3つの研究の柱を軸とした30の研究プロジェクトにより、地域を軸としながらも世界を視野に入れた基盤研究から社会実装までを分野横断的かつ柔軟に推進し、喫緊の課題解決だけでなく確固たる知の集積を着実に実施し、地(知)の拠点としての地位を確立します。

重点研究分野における3つの柱と研究プロジェクト

健康寿命日本一に向けた異分野融合研究

- 生活習慣病及び血管・循環器疾患の予防と治療に関する研究
- がん・難治性疾患の予防と診断・治療に関する研究
- 人獣共通感染症・新興再興感染症制御に向けた基盤研究
- HTLV-1感染症等ウイルス性疾患のメカニズムと治療法開発
- 超高齢化社会における認知症予防等心身機能の維持・回復によるQOLの向上
- 機械知能を利用したQOLの向上と社会への応用
- 遠隔医療の導入と地域医療の高度化
- 精神神経障害の研究と自殺防止
- 体内現象の工学的解釈とその応用
- 食の機能性と安全性評価

研究プロジェクト例

分野横断体制で取り組む循環・運動器疾患の克服による健康寿命の延伸

健康寿命日本一を目標に、行政・医療機関・市民団体などと連携して介護原因となる疾患の早期発見・予防に挑んでいます。みやざき健康キャラバン隊は、医学部を中心としたスペシャリストが県内イベントや健診会場・学校などへ出向き、家族で健康について考える講義や健康チェックなど、年間50件を超える啓発活動を繰り広げています。目下、寝たきり原因第1位の脳卒中を防ぐべく「宮崎の『かくれ心房細動』ゼロ!!作戦」を県内全域で展開しています。



持続可能な社会を目指した次世代産業の創出

- カーボンニュートラル達成に貢献する再生可能エネルギー技術とその利用の高効率化
- 電気通信技術の基盤を支える技術要素の高度化
- 有機無機新規機能性材料の開発
- 宇宙・惑星・地球で起こる様々な自然現象の理解
- 農林水産物の品種改良及び生育環境の制御による高品質、高収量化
- 中山間地を含む地域の文化・資源を活用した経済基盤の強化
- 地域の生物資源と自然環境を活用した暖地型農林水産業の活性化
- 生態系サービス発揮機構の解明に基づく持続可能な生態系管理手法の開発
- 生物多様性の評価と保全及びその利活用
- 動植物・微生物の生理的機能及び生体機構の解明
- 動物の新規診断・治療法及び防疫方法の開発

研究プロジェクト例

DXで拓く宮崎の安心・安全未来づくり

宮崎大学独自のDX技術により、新しい社会システムの創出に取り組んでいます。

画像解析・AIによる豚の体重の可視化や新生児非接触体重予測、遠隔での工場・施設等の見守り、AIを用いた体内シミュレーション手法開発、DXによる地域の防災・国土強靱化、災害に強いエネルギーレジリエンスシステムの開発など、産学官が強固な連携を組んで研究を進め、社会改革に繋がるイノベーション創出を目指しています。



多様性を重視した地域社会の基盤構築

- すべての幼児・児童・生徒に対する学びの創造に関する研究
- 多様なリカレント教育・生涯学習のプログラム開発
- 次世代を育む周産期母子から乳幼児までの総合的ケア
- 出生前から終末期までの医療と社会の円滑なコミュニケーションの実践
- 地域全体を対象としたコホート研究と災害医療を含む包括的医療ネットワークの構築
- 地域社会のニーズに対応する柔軟で強靱な医療人育成実践研究
- 地域農業のスマート化による高効率化
- 地域社会及び環境と調和したレジリエントな社会の構築
- 多文化共生社会における地域・交流・人材マネジメント研究

研究プロジェクト例

ビッグデータを活用した地域シンクタンク機能の構築

行政や各種ビッグデータを活用しシンクタンク機能を高度化、経済動向の把握や将来課題の抽出及び経済シミュレーションによりEBPMに基づく政策形成を支援します。また、学内活動の地域経済への波及効果の測定や本学の役割等の可視化を行い、データサイエンスの知見をもとに研究シーズと地域ニーズをつなぐ学際的な課題解決を図ります。



学部・別科

教育学部

多様な学びを通して、社会に貢献できる教員を目指そう

教育学部は、現代の様々な教育課題に対応でき、子供たちの成長をしっかりと支え続け、新しい時代を切り拓く、小学校・中学校・小中一貫校(義務教育学校)・幼稚園・特別支援学校等の教員を養成します。本学部では、コースごとにカリキュラムが組まれ、学校現場の諸問題や児童生徒の心身の諸問題、各教科の内容・指導法を専門的に学びます。それとともに介護体験実習、教育実習といった、教員になるために必要な、より実践的な教職科目も学習します。

課程・コース ●学校教育課程(小中一貫教育コース、教職実践基礎コース、発達支援教育コース)

附属施設 ●附属教育協働開発センター ●附属学園(附属幼稚園、附属小学校、附属中学校)

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/>



医学部

良き医療人材の育成と生命科学分野の研究拠点を目指して

医学部は、「地域における医学・医療の中心的な役割を果たすと同時に、進歩した医学・看護学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔な医師、医学研究者、看護職者および看護学研究者を育成し、国内外の医学および看護学の水準向上と社会福祉に貢献すること」を使命としています。医学科は、宮崎の地域医療に貢献でき、国際的にも活躍できる優れた医師・医学研究者の育成を目指しています。看護学科では、看護による健康への支援を通して、社会と地域の保健医療に貢献できる人材の育成を目指しています。

学 科 ●医学科 ●看護学科

附属施設 ●附属病院

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/>



工学部

宮崎に根ざし、世界に目を向けた工学部

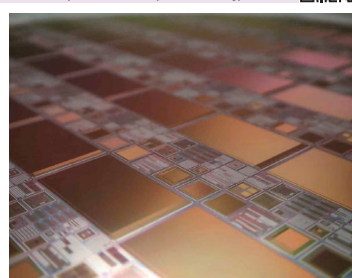
工学部では、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、人間性豊かで、コミュニケーション能力が高く、確実な基礎学力と幅広い応用能力を身に付け、21世紀の高度な科学技術分野や最先端技術分野で活躍できるような、問題発見・解決能力を備えた創造性豊かな技術者の育成を目指しています。また、地域産業の発展を推進することにより、地域社会に知的な貢献をすることにつとめています。

学科・プログラム ●工学科 化学生命プログラム、土木環境プログラム、半導体サイエンスプログラム、電気電子システムプログラム、機械知能プログラム、情報通信プログラム

学部内センター ●工学基礎教育センター

●ものづくり教育実践センター ●ICTソリューションセンター ●教育研究支援技術センター

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/>



農学部

日本、アジア、そして世界の食料・環境・人や動物の感染症問題の克服を目指して

農学部は、環境問題、食の安全確保、持続的な農産物の生産、人と動物の共通感染症克服など、様々な課題に対応できる人材育成を目指し、2学科4コースを設置しています。農学や生命科学に関する知識と基盤的な能力(農学ジェネラリティ)を備え、農業、食物生産、自然環境の保護、獣医療などの高度な専門性をもつ、実践型スペシャリストの育成を目指します。

学科・コース ●農学科 動植物資源生命科学コース、森林環境持続性科学コース、海洋生命科学コース、応用生命化学コース

●獣医学科

附属施設 ●附属次世代農学教育研究センター ●附属動物病院 ●附属農業博物館

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/>



地域資源創成学部

地域を創るリーダーになろう!

地域資源創成学部では、マネジメントの専門知識と社会・人文科学および農学・工学分野の利活用技術の基礎知識を教授する異分野融合の教育研究カリキュラムが構築されています。また、研究者教員と実務家教員とが協働した実践的教育、宮崎県全域をフィールドとした実習や国内・海外インターンシップによる地域の方々と一体となった協働教育を導入しています。持続可能な地域づくりを包括的にマネジメントでき、地域資源を理解し活用しつつ、ビジネスや地域産業、行政などの現場で革新的な価値を創出できる人材の輩出を目指します。

学科・コース ●地域資源創成学科(企業マネジメントコース、地域産業創出コース、地域創造コース)

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/atrium/>



別科(畜産別科)

地域農業の担い手として活躍できる人材の育成を目指して

最近の農業生産では、単位面積当たりの農業生産効率の向上ばかりではなく、食品の安全性、労働環境の改善や環境保全に配慮した「持続的な生産活動」を実践する農業生産工程管理(GAP)の重要性が高まっています。このことから、畜産別科では家畜生産現場の拡大に伴う機械化、省力管理経営形態に対応した人材育成に加え、農業生産工程管理(GAP)も教育要素として取り入れ、幅広い知識と実践を身に付けた人材育成を目指します。家畜人工受精師の資格については、他の機関において開催される講習会を受講することで取得可能です。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/chikusan-bekka/>



教育学研究科

高度の実践力・応用力を有する教員の養成を目指して

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/graduate/>



教育学研究科は、専門職学位課程(教職大学院)として、教職実践開発専攻を設置しています。「教職としての高度の実践力・応用力を備え、地域に根ざす学校づくりの有力な一員となり得る新任教員」、また、「教職としての高度の実践力・応用力を備え、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員に必要な不可欠な確かな教育理論を備えたスクールリーダー」として、深い学識および卓越した能力を有した教育の発展に寄与する人材を養成しています。

専攻等

●教職実践開発専攻【専門職学位課程：教職大学院】

教職実践高度化コース(教育行政・学校経営分野、生徒指導・教育相談分野、教育課程・授業研究分野)、教科領域指導力高度化コース(言語教育系(国語・英語)領域、理数教育系(数学・理科)領域、社会認識教育系(社会)領域、芸術教育系(音楽・美術)領域、スポーツ・生活科学教育系(保健体育・技術・家庭)領域)、特別支援教育コース



看護学研究科

生命の尊厳を第一に、ケアの本質を研究する

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/kango/graduatecollege/>



看護学研究科は、変化する地域社会や複雑化する社会情勢の中で、拡大・専門化する看護学や看護学教育の必要性を踏まえ、保健医療福祉の現場で広く活躍できる看護学研究者・教育者・実践者・指導者の育成を目的としています。実践看護者育成コースでは、がん看護専門看護師・助産師の受験資格を得られるカリキュラムを有しています。また、地域社会のニーズに応えるとともに、学際的思考と国際的視野から、その研究成果を世界に向けて発信することにより看護学の発展に寄与することを使命としています。

専攻・コース

●看護学専攻(研究者育成コース、実践看護者育成コース)



工学研究科

産業界等で国際的に活躍できる高度専門技術者を目指して

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/master/>



工学研究科は、隣接する研究分野を融合させてコース化するとともに、1専攻化して専門分野の垣根を取り払い、学士教育の単なる延長ではない融合型専攻としての教育プログラムを構築し、幅広い視野、専門応用能力、コミュニケーション能力、国際性を育成します。さらに、育成した能力をもとに専門性を深化させ、高度専門知識を修得して応用でき、自ら課題を探索し、解決に向けて知識を活用し主体的に考え、日本語、英語によるコミュニケーション能力を有する、国際的に活躍できる実践的な応用力を有する高度専門技術者を育成します。

専攻・コース

●工学専攻(先端情報コース、環境コース、電気・半導体コース、機械コース)



農学研究科

専門性の深化と国際性豊かな高度専門人材の育成を目指して

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/departments/gsa-master/>



農学研究科は、平成26年度に従来の5専攻を改組し、新たに農学専攻(1専攻6コース)を設置しました。同専攻では、学部教育の専門性をさらに深化させ、国内外の食料、環境、資源および生命に関する問題点を解決し、自然環境と調和のとれた持続的生産社会の創造に貢献できるとともに、農学に関する高度な専門知識と応用能力を有する国際性豊かな高度専門技術者および研究者の育成を目指します。

専攻・コース

●農学専攻(植物生産環境科学コース、森林緑地環境科学コース、応用生物科学コース、海洋生物環境科学コース、畜産草地科学コース、農学国際コース)



地域資源創成学研究科

持続可能な地域社会を創造する高度専門人材を養成

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/atrium/>



地域資源創成学研究科は、地域学、地域資源論、地域資源利活用論の3つの教育研究領域で構成されています。地域に賦存する多様な地域資源の利活用から新しい創造的価値の創出を行い、今後の社会経済環境の変化に対応でき、強靱で持続可能な地域社会の形成を推進・実現することが可能な高度な専門性を有する人材養成を目指します。

専攻等

●地域資源創成学専攻

附属施設

●附属地域資源情報活用センター



医学獣医学総合研究科

医学と獣医学が完全に融合した全国唯一の修士・博士研究科

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/ijudaigakuin>



医学獣医学総合研究科は、医学と獣医学それぞれで培われてきた教育・研究実績を踏まえて、それらを連携・融合することにより、今までは得られなかった両分野における知識、研究能力を身につけることができます。また、グローバル時代の課題である食料問題や新興・再興感染症対策を始めとする医学・獣医学にまたがる諸課題を解決できる人材を養成することも目的としています。このような教育・研究を通して、本研究科が立地する畜産基地からの要請に応えるとともに、人類の健康と福祉の向上に貢献します。

専攻等

●医科学獣医学専攻【修士課程】(生命科学研究者育成コース、

高度医療関連技術・サービスイノベーション人材養成コース、生命倫理コーディネーターコース)

●医学獣医学専攻【博士課程】(高度臨床医育成コース、高度獣医師育成コース、研究者育成コース)



農学工学総合研究科

農学と工学が融合・深化した博士後期課程で最先端の研究を!

https://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/agr_eng/index.html



農学工学総合研究科は、農学と工学の学問的背景と連携協力の実績を踏まえて、農学と工学が連携・融合した教育研究領域の深化を図り、最先端の研究を展開しています。本研究科では、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者・研究者の養成を行うために3専攻を設置し、融合型教育プログラムを提供しています。また、社会人として経験を活かしながら高度な技術や知識を習得しようとしている人材や外国人留学生を積極的に受け入れています。

専攻・コース

●資源環境科学専攻(環境共生科学教育コース、持続生産科学教育コース)

●生物機能応用科学専攻(生命機能科学教育コース、水域生物科学教育コース)

●物質・情報工学専攻(新材料エネルギー工学教育コース、生産工学教育コース、数値情報工学教育コース)



部局・附属施設等

先端研究推進本部

先端研究推進本部は、本学における先端的研究の強化、異分野融合的研究の推進、研究成果の社会実装に向けた提言等を目的とし、令和6年4月から設置されました。また、重点研究分野の更なる強化・拡張のために、組織改編により、同本部に、フロンティア科学総合研究センター、産業動物防疫リサーチセンター、GX研究センター（令和6年4月新設）を集結させ、機動的かつ計画的な先端研究プロジェクト、戦略的な社会実装を展開しています。

フロンティア科学総合研究センター

フロンティア科学総合研究センターは、令和7年4月の改組によって、先導研究推進部門、生命科学研究支援部門、プロジェクト研究部門の3部門の構成となりました。本センターはこれまでも生命科学を中心とした宮崎大学の重点領域研究および異分野融合研究を推進しつつ、学内外の教育研究活動に関連した幅広い支援を行ってきました。さらに、令和7年度からはキャンパス別の支援体制を見直し、研究目的や手法ごとに全学的な管理体制を構築し、宮崎大学における生命科学研究の原動力として、キャンパスや学部を超えた教育研究活動とその支援に発展的に取り組んでいきます。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/frontier/>



産業動物防疫リサーチセンター

産業動物防疫リサーチセンターは、国内有数の畜産県である宮崎県に立地しているという特色を踏まえ、産学官と連携して次世代・近未来型の防疫戦略を創出するため、異分野融合を軸にした研究を行っています。また、アジアを中心とする海外の大学や研究機関との連携を強化し、畜産フィールドと直結した実践的かつグローバル化時代に対応した防疫戦略の構築や産業動物防疫に関する世界水準の研究・人材育成拠点の形成を目指しています。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/cadic/>



GX研究センター

GX研究センターは、国内有数の日照時間と農業生産を誇る宮崎県において、太陽光発電やバイオマスを中心とした地域循環型カーボンニュートラル技術から発展するGX技術の新規開発に取り組み、持続可能な社会の構築を目指します。カーボンニュートラル研究開発やエネルギー・農資源の循環、地域防災レジリエンスに関する研究開発、さらにはDX技術と融合させたG&DX健康情報研究開発やG&DX教育を産官学金連携で加速度的に展開し、環境性能および事業性に優れた産業並びに次世代を担う人材を創出します。



<https://www.miyazaki-u.ac.jp/gx>



学び・学生支援機構

学部および大学院等の各教育プログラムと連携した教学マネジメントおよび入学選抜を通して、教育の質を保証し、学修者自身が課題を見出し、解決に必要な知識や技能等を求める学びを支援します。また、高等教育機関や産業界等の地域と共働することで、多様で豊かな学びを経験できる機会を企画および運営することを目的とします。さらに、本学学生が安心して学修できるよう、就職および進学を含む学生生活全般を支援します。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/manabi/>



教学マネジメントユニット | 学生支援ユニット | 共創人材育成ユニット | リカレント教育推進室

教育企画部門
教養教育部門
アドミッション部門

学生支援部門

共創人材育成部門
総合知教育企画部門
数理・データサイエンス部門

研究・産学地域連携推進機構

研究・産学地域連携推進機構は、本学における理念、基本方針等に基づいて、研究の活性化および高度化に係る施策の企画、実施、研究活動の支援等を行います。また、国内外の機関や企業等との産学連携事業の推進、支援並びに研究成果の活用、社会還元を進め、地域社会や産業の振興に寄与することを推進します。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/kscrs/>

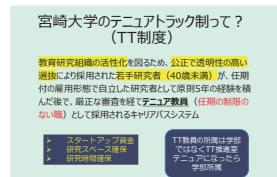


研究推進部門 | 研究基盤支援部門 | 産学・地域連携部門 知的財産・研究リスクマネジメント部門 | ヘルスケア研究部門 | 産業人材育成部門

テニュアトラック推進室

テニュアトラック（TT）制とは、採用された若手研究者が5年の任期内に研究主宰者として研鑽を積んだ後、審査を経て任期がないテニュア教員として採用されるキャリアパスのことです。本学は、重点的教育研究分野の優秀な教員を育成する目的でTT推進室を設置し、これまでに18名の優秀な若手研究者を学部等に輩出しています。本事業への評価は高く、全国的なTT制のロールモデルとなっています。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/ttkikou/>



次世代研究者支援室

次世代研究者支援室では、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代研究者挑戦的研究プログラムの支援を受けて実施する次世代研究者支援事業の下、優秀な博士後期課程学生および博士課程学生に、研究奨励費（月額18万円）および研究費（年額40～70万円）を支給することにより、学術研究に専念できる環境を提供しています。トランスファブルスキル（職種・地域・業界を超えて活用できる汎用性の高いスキル）と厳しい環境下でも負けない強さを身につけた次世代研究者の育成・支援を目標にしています。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/jisedai>

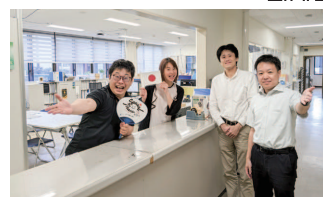


国際連携機構

国際連携センター

国際連携センターは、本学の「世界を視野に、地域から始めよう」のスローガンのもと、4つの柱①学術・研究者交流、②学生交流、③国際協力・国際貢献、④地域の国際化への貢献を推進しています。学生交流では、16の国・地域から111名の外国人留学生が学び、日本人学生の海外留学、海外語学研修、海外ボランティアも年々増えています。当センターでは、海外の大学等との連携、外国人留学生や留学希望者に対する学修、生活、留学相談、アドバイジング等の支援を充実するため、ワンストップサービスを実施しています。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/kokusai/>



大学について

教育の特色

多言語多文化教育研究センター

多言語多文化教育研究センターは、各国の言語や文化に関する研究に基づく教育を推進し、国際性豊かな人材を育成するとともに、その成果を還元することにより社会の発展に寄与することを目的としています。関係部局と連携して専門分野を含めた多言語多文化に関する様々なプログラムを企画・実施し、学生・教職員を対象に課外語学プログラムの開講、資格試験や留学・研修に向けた語学学習の指導、異文化理解を促す取組などを積極的に行っています。外国人留学生の学習や生活を支える日本語教育にも力を入れています。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/language/>



研究の特色

学部・別科・大学院

IRセンター

IR (Institutional Research) とは、大学で蓄積された様々なデータを収集し、戦略的に大学運営を進めるための根拠となるデータを分析して、大学の機能強化や意思決定を支える情報戦略活動のことです。IRセンターは、「教学部門」「学術研究部門」「経営戦略部門」の3つの部門を設置し、大学の現状の可視化や評価のための資料作成など様々な場面で活用できるデータの収集・蓄積と各種分析を行っています。また、情報の流通性と付加価値の向上に取り組み、効率的な業務活動の展開を支援しています。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/ircenter/>



部局・附属施設等

安全衛生保健センター

安全衛生保健センターは、学生および教職員の心身の健康管理を専門的にサポートするとともに、学内で発生する事故を予防し、安全で快適な教育・研究・職場環境を形成するための提言や指導を行うための施設です。急病やけがの応急処置をはじめ、生活習慣病や心理・精神的な問題に対するカウンセリング等を行っています。また、実験・研究中の事故を防止するための啓発活動や安全マニュアルの策定等も行っています。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/anzen/>



地域貢献

資料編

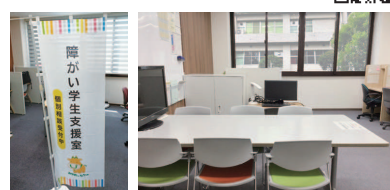
障がい学生支援室

障がい学生支援室は、障がいや疾患および社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける学生に対し、学内外の関係部局等と連携を図りながら、円滑な修学が可能となるよう支援しています。

◆主な業務は次のとおりです。

①修学支援に関するガイドラインの策定 ②支援方法の提案・調整 ③学生・教職員の支援の相談窓口、支援の理解、啓発活動 ④情報の一元化・支援情報の公開 ⑤施設設備のバリアフリー化 ⑥各部局で行われる支援のサポート

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/accessibility/>



キャンパスマップ

情報基盤センター

情報基盤センターは、大学全体の情報施策の立案・策定・実施・点検および情報ネットワークや情報システム等、情報基盤の整備・更新・運用管理を行っています。また、情報資産を安全で高い信頼性をもって運用するために、サイバー攻撃に対する技術的な対策を実施するとともに運用者および利用者への情報セキュリティ教育や技術的支援等を行っています。学内で発生した情報セキュリティ事故に対してはCSIRT (シーサート: 情報セキュリティインシデント対応チーム) として迅速に対応します。

<https://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/>



清花アテナDEI推進室

木花・清武の両キャンパスにオフィスを設置する清花アテナDEI推進室は、セミナーの開催や支援制度の運用、相談対応などを通じたDEI (= diversity, equity, inclusion) 推進により、「誰もが学びやすい、働きやすい環境」の実現を目指しています。また、女子中高生やその保護者を対象とした「Girls, be ambitious! 未来を考えるフェスタ」など学外の方が参加できるイベントや、学外団体等との連携により地域におけるダイバーシティ推進やジェンダーギャップ解消にも取り組んでいます。

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/kiyohana/>



附属図書館

<https://www.lib.miyazaki-u.ac.jp>



附属図書館は、本館（木花キャンパス）と医学分館（清武キャンパス）から構成されており、本学における知の拠点として教育・研究を支援するとともに、地域に貢献する組織として活動しています。

図書館では、学生用図書の実質、電子ジャーナルの整備、学術リポジトリの拡充、文献検索講習会の開催、ラーニングコモンズ等の設備充実にも努めているほか、地域の方への図書館利用や県内の大学図書館、公共図書館との連携の強化を図る取組を行っています。

附属図書館のラーニングコモンズでは、学生の自発的な取組が活発になされており、グループ学習、国家試験対策、教員採用試験対策などの他、地域に関連した取組なども行われています。

また、1Fの展示スペースでは、常設展示のほか、学生生活や修学のサイクルに合わせて所蔵資料の展示を行ったり、研究活動や学生活動のパネル展、教育研究成果物の展示なども行っています。



総合技術センター

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/ctc/>



総合技術センターは、宮崎大学における教育・研究活動を支える技術支援部門として、農・工・生命分野の技術職員が連携し、教育・研究支援や人材育成、技術の継承に取り組む体制づくりを進めています。現在、技術職員のスキルを可視化した「技術支援一覧」の整備を進めており、これを基盤として、教員からの相談や支援依頼を受け、可能な範囲で対応していくことを目指しています。異分野連携や地域との協働も視野に入れ、持続可能な技術支援体制の構築を目指します。



学部附属施設

教育学部附属教育協働開発センター

附属教育協働開発センターは、宮崎県内の学校や教育委員会、地域社会と連携を図り、実践的指導力を持つ教員の養成および現職教員の研修等に関する開発や教育研究の推進、学校教育における教育実践に関する研究を総合的に行うことを通じて、学部、大学院および地域社会における教育の発展充実に寄与することを目指しています。教師教育部門と授業研究部門の2部門があり、紀要の発刊と宮崎県教育庁派遣研究生の受入れに加えて、宮崎県教育研修センターとの協働や市町村教育委員会との連携事業、学校を単位とした授業研究、「みやざきの教育」ブックレットシリーズの制作などに取り組んでいます。



<https://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/center/>



教育学部附属学校園

附属中学校 <https://www.miyazaki-u.ac.jp/jhs/>
附属小学校 <https://www.miyazaki-u.ac.jp/fes/>
附属幼稚園 <https://www.miyazaki-u.ac.jp/fuyou/>

附属学校として、小学校、中学校および幼稚園を設置しています。附属学校の役割は大きく二つに分けられます。一つは学部・研究科の教員養成カリキュラムの中核にある教育実習を指導することです。もう一つは学部・研究科と共同・連携して、教育課程、指導内容・方法、異学校種間の接続教育および一貫教育の在り方について先導的・実験的な研究を行うことです。そして研究成果を公開研究会で発表したり、教員研修プログラムの内容として取り入れたりして、教師の資質向上に取り組んでいます。これらの取組を宮崎県や市町村の教育委員会とも連携して実施することによって、地域の教育の質の向上に寄与しています。



医学部附属病院

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/hospital/>



医学部附属病院は、総病床数604床を有する宮崎県における中核的医療機関です。平成6年には特定機能病院の指定を受け、30の診療科とそれぞれの中央診療部門には、最新の医療機器と優秀な医療スタッフをそろえ、医療内容の高度化、多様化に加え、時とともに変わる疾病構造の変化にも適切に対応できる体制を整えています。また、病診連携を深め、地域の医療機関からの紹介患者さんを中心に、2次医療、3次医療に取り組んでいます。一方で県内の医療機関として、卒後2年間の初期臨床研修、それに続く専門医研修並びに開業医や勤務医の生涯学習のための研修および看護師の特定行為研修も行っています。



本院の理念

●診療、教育、研究を通して社会に貢献します。

基本方針

- 患者さんを医療チームの一員とする良質な医療の実践
- 地域の医療連携強化と最後の砦としての覚悟
- 臨床研究の推進による先端医療の開発と提供
- 人間性豊かな倫理性の高い医療人の育成
- お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備

農学部附属次世代農学教育研究センター

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/cia/>



農学部附属次世代農学教育研究センターは、令和7年度にこれまでの附属フィールド科学教育研究センターを改組して発足しました。宮崎県の主要な産業である農林水産業と宮崎大学全学部をつなぎ異分野融合の教育研究を推進することを目的としています。旧附属フィールド科学教育研究センターに属していた木花フィールド（農場）、住吉フィールド（牧場）、田野フィールド（演習林）および延岡フィールド（水産実験所）の4施設は先端フィールド実践部門を構成し、新しく地域共創・異分野融合推進部門が設立されました。学内での学部間の融合型教育研究の推進だけでなく、地域の課題を公募型卒業研究として取り上げ、また小中高との連携も今まで以上に強化します。



農学部附属動物病院

https://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/vet_hosp/index.html



附属動物病院は、昭和28年の設立以来、臨床獣医学の教育研究の場および卒後研修の場として、そして地域の中核となる動物診療機関としての役割を担ってきました。平成19年度以降は、専門性を備えた紹介制二次診療施設として高度獣医療サービスを提供すべく、日々スタッフ一同励んでいます。また、臨床研究を推進し、新しい診断法や治療法の開発にも取り組んでいます。

本院は、全国を代表する黒毛和種牛の生産地である宮崎県に立地することから、伴侶動物（犬、猫）だけでなく、繁殖障害や難治性の内科疾患・外科疾患の牛も積極的に受け入れ、最新の研究成果や技術を取り入れた診療を行っています。



農学部附属農業博物館

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/museum/>



農学部附属農業博物館は昭和10年に、宮崎高等農林学校（農学部の前身）の開校10周年記念事業として、旧船塚キャンパス（宮崎市船塚町）に設置されたことに始まります。現在の博物館は昭和61年に完成し、平成17年に博物館相当施設の指定を受けています。

本館では、農・林・畜・水産業に関する資料の展示と大学の最新の研究とその成果を紹介しています。

また、分館の講義室や実験室では、学芸員養成教育や地域の方を対象とした講座等を行っています。

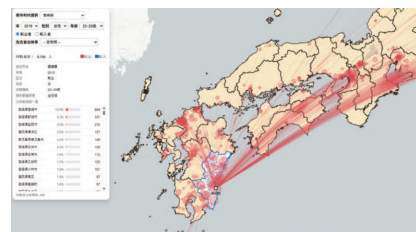


地域資源創成学研究科附属地域資源情報活用センター

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/atrium/centerh/top.html>



地域資源創成学研究科附属地域資源情報活用センターは、学術コミュニケーション部門及び地域統計・データ活用部門の2部門からなる研究推進・情報発信拠点として再編されました。地域資源創成学部を中心とした学術情報や研究成果を収集・管理・整理し、広く発信するとともに、研究者・自治体・地域社会との連携のもと、地域資源の見える化・デジタル化、データ活用及び情報システムの活用を通じて、地域課題の解決やAI時代を担う人材育成を推進し、宮崎大学による地方創生支援に寄与します。



交流施設

創立330記念交流会館

<https://www.of.miyazaki-u.ac.jp/330anniv/330hall/330top.html>



宮崎大学創立330記念交流会館は平成26年に、教育学部が創立130周年、農学部が同90周年、工学部が同70周年そして医学部が同40周年の節目を迎えるに当たり、4学部の歴史（周年）を合計した330を冠した宮崎大学創立330（サンサンマル）記念事業の一環として計画されたもので、宮崎県産のスギ材を主体としたユニークな木造建築物として平成26年11月に完成しました。本会館は、学び・学生支援機構や売店など学生サービスの拠点機能のほか、会議室や最大200名収容可能なホールを備え、公開講座や講演会、文化交流活動等の開催など、地域における生涯学習の振興の一助ともなり得るコミュニティセンターの機能も有しています。



地域デザイン棟

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/facilities/related-facility/design.html>



平成29年10月30日に米良電機産業株式会社（宮崎市）の寄附により、宮崎大学のコアエリアに、地域・企業・学生が24時間フルオープンで交流する場として新設されました。開放的でスタイリッシュなデザインも含め、学内外から今注目を集めるスポットです。セミナーや講義、学習のためのStudio、会議、打合せのためのMeeting Room、学内外の情報や最先端研究成果を映すMIYADAI DISPLAYなどを配置しています。学内外を問わず、誰でも自由に利活用できる、産学官連携の拠点施設です。



イスラーム文化研究交流棟

イスラーム文化研究交流棟は本学の国際化を推進する戦略の一環として、平成26年に整備された施設です。宮崎大学のグローバル化（急速に経済発展するイスラーム圏からの優秀な外国人留学生の受入推進）および宮崎県が掲げるフードビジネス推進の一助として、イスラーム圏を対象としたハラル食品並びにイスラーム文化の研究、イスラーム圏との貿易促進等に必要な情報交換および文化交流が行われています。



地域貢献(産学官連携・地域人材育成)

県内市町村との連携事業

県内市町村等と連携・協力に関する包括協定を締結し、地域の特色を生かした地域活性化事業を様々なアプローチから実施し、地域の振興に貢献しています。



「門川町・宮崎大学連携事業年次報告会」の様子

都農町寄附講座

令和2年4月に一般財団法人つの未来まちづくり推進機構(都農町)の寄附により、都農町内に、医学部と地域資源創成学部の2講座を設置しています。本学として県内の町村に単独で寄附講座を開設するのは初の試みで、各講座2名の教員が専任で、都農町の課題解決に繋がる教育・研究・実践に取り組んでいます。



医学部地域包括ケア学講座による地区巡回型のけんこう講話

公開講座等を通じた地域への開放

多様化する学びの要請に応えるため、例年35件以上の公開講座を実施し、1000人以上の方に受講していただいております。また、毎年11月には、学生主催のイベントである大学祭と同時開催で大学開放事業「みやだい Waku Waku 体験Day」を実施し、子ども向け講座や農産物販売などの各種イベントを実施しています。



公開講座「まちなかカレッジ」の様子

産学金労官が連携した人材育成

宮崎県からの委託により、県内の産学金労官の機関・団体が構成される「宮崎県産業人財育成プラットフォーム」と連携し、県内企業等のインターンシップ受入環境の整備や県内大学生等の県内就職推進及び県内企業の認知度向上に資する取組などを実施しています。



インターンシップ実施の様子

一般社団法人 高等教育コンソーシアム宮崎

県内高等教育全体の質的向上と地域の教育・学術研究の充実・発展を図るため、宮崎県の11高等教育機関が相互に連携・協力し、公募型卒業研究テーマ事業、単位互換事業、FD・SD活動や、県内への進学意欲醸成のためのシンポジウムなどを実施しています。



令和7年度シンポジウム実施の様子

宮崎大学リカレント教育講座

宮崎大学ではリカレント教育として「ひなた学び塾」を開講しています。普段、大学で開講されている講義の一部を体験できる講座となっており、高校生以上であればどなたでも受講できます。「ひなた学び塾」では、宮崎大学の教員および名誉教授を講師に招き、社会人の学び直しに貢献します。また、Zoomによるオンライン配信やオンデマンド配信にも対応し、時間や場所にとらわれず、より多くの方に機会を提供できる環境を整えています。



ひなた学び塾の様子

産学官連携推進事業

産学官連携によるイノベーションの創出を目指し、「技術・研究発表交流会」や「マッチングのためのラウンドテーブル」等、教員と企業等を結ぶ様々な活動を行っています。また令和7年4月、錦本町ひなたキャンパスに「ひなたイノベーションハブ」が開設されました。宮崎県、宮崎県産業振興機構と連携し、コーディネーターを配置することで、大学の枠を超えた産学官連携の促進、新製品・新技術の研究開発支援、事業化の支援等を行っています。



宮崎県の産学官連携の拠点となる「ひなたイノベーションハブ」の様子

高度な分析機器の利用による研究支援

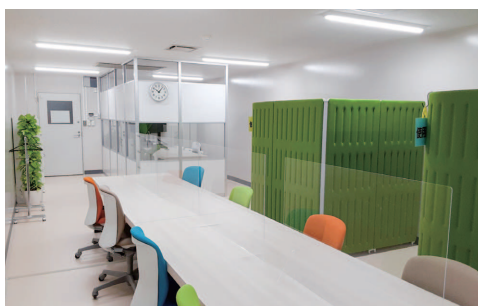
高度な分析機器を研究・産学地域連携推進機構研究基盤支援部門に集約し、学内外に対して研究・技術開発に必要となる各種試験等を提供しています。また、宮崎県内の公設試験研究機関を含む分析機関との連携を推進するため、「みやざきファシリティネットワーク」を主導・運営し、本学の研究基盤の強化を図りながら地域の課題に一層応え得る体制を構築しています。



令和6年度第1回みやざきファシリティネットワーク運営委員会の様子

大学発ベンチャー企業の育成および支援

本学との共同研究などにより創出された成果を基にベンチャー企業を立ち上げた場合、「大学発ベンチャー」として認定しており、一定期間、学内の研究室等を低廉で利用できる支援等を行っています。令和3年11月には、複数のベンチャー企業が入居でき、オンラインでの会議や打合せなどができる設備を備えた「大学発ベンチャーシェアオフィス」を新設し、ベンチャー支援を推進しています。



大学発ベンチャーシェアオフィスの様子

知的財産に係る技術移転・実用化の推進

本学で創出された知的財産を社会に還元するため、各種イベントへの出展や九州産業界等と連携したGAPファンド参画などを通じて、技術移転、実用化、大学発ベンチャーの創出を推進しています。



Bio Japanでの技術紹介の様子

ミヤダイミライ塾

米良電機産業株式会社からの寄附により設置された寄附講座「地域デザイン講座」(平成29～令和3年度)の活動を引き継ぎ、令和4年度からは、「ミヤダイミライ塾」として新たにスタートしました。地方創生やDXなどをテーマに、地域や企業、学生および大学関係者による交流の場の提供と情報発信を行っています。



ミヤダイミライ塾の様子

宮崎・学生ビジネスプランコンテスト

宮崎県内の大学・短大・高専生(4年生以上)が挑戦できる場として、自身の想いを形にして他人に伝える力、起業家精神の教育に力点を置くコンテストを、テレビ宮崎、宮崎銀行との連携により実施しています。参加学生からは「文部科学大臣賞」受賞者や実際に起業する事例も出てくるなど、注目される取組です。



「第6回宮崎・学生ビジネスプランコンテスト」決勝プレゼンテーションの様子

国際交流

宮崎大学では、およそ100の海外大学等と国際交流協定を締結し、活発な学生交流・学術交流を行っています。また、文部科学省(MEXT)、日本学術振興会(JSPS)、国際協力機構(JICA)、科学技術振興機構(JST)をはじめとする各種機関の助成等により、日本人学生・研究者の海外派遣や外国人留学生・研究員の受入も積極的に行っています。

国際交流協定校との学生相互交流

宮崎大学では、アジア諸国の大学を中心に学生交流を行っています。プログラムとしては、令和5年度に採択された文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の一環で、アメリカ、韓国、台湾の大学と毎年交流を行っているほか、大学間国際交流協定、部局間国際交流協定により、それぞれの学部・研究科において学生交流を行っています。



キャンパスの国際化

日本人学生が、来日したばかりの外国人留学生のチューターを務めることで、学業や日常生活を支援しています。また、宮崎大学留学生会(MUFSA)が企画するウェルカムパーティーをはじめとする各種国際交流イベントを通じて、異文化理解の促進を図るとともに、グローバルな環境で日本人学生の国際性の涵養を目指します。研究面では、科学技術振興機構(JST)の「さくらサイエンスプログラム」等の事業が多数採択されており、活発な交流を行っています。



地域社会への貢献

宮崎市、JICA九州センター、NPO団体等と連携し、留学生を含む外国人住民及び地域住民を対象に「つながる防災セミナー」を実施しています。防災アプリの使い方や防災グッズ体験、周辺ハザードマップ・避難所確認、雲や竜巻発生実験を通じ、台風・地震発生時に自ら安全を確保する知識習得を支援するとともに、外国人と地域住民の相互理解を促すなど地域の国際化を支援しています。



海外オフィス

本学と海外の大学等との教育および研究活動における連携強化や海外における広報活動、学術情報の発信および収集等を行うため、3ヶ国4ヶ所に海外オフィスを設置しています。

- インドネシア(ブラウィジャヤ大学・ガジャマダ大学)
- ミャンマー(ヤンゴンコンピュータ大学)
- ベトナム(ベトナム国立農業大学)

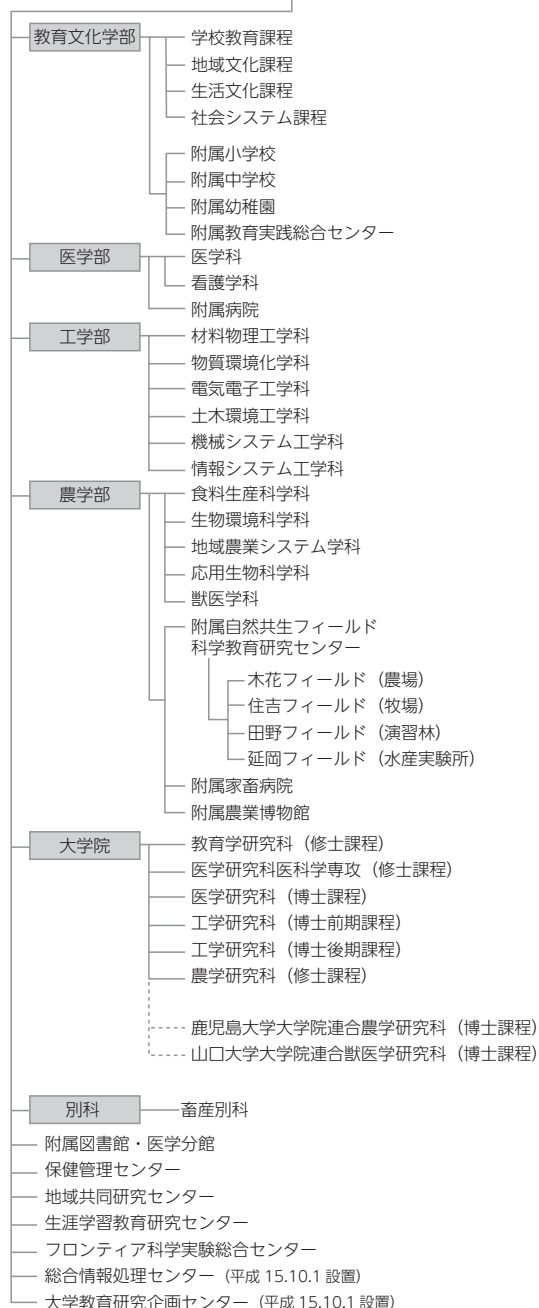
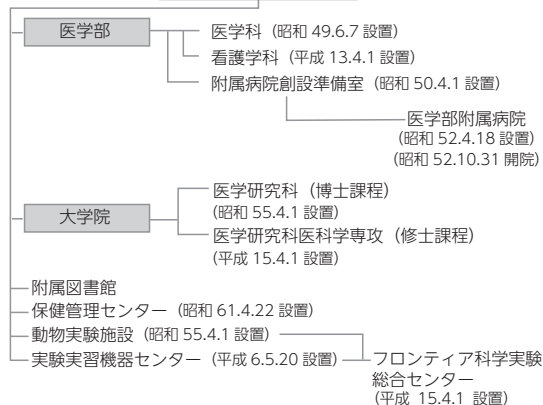
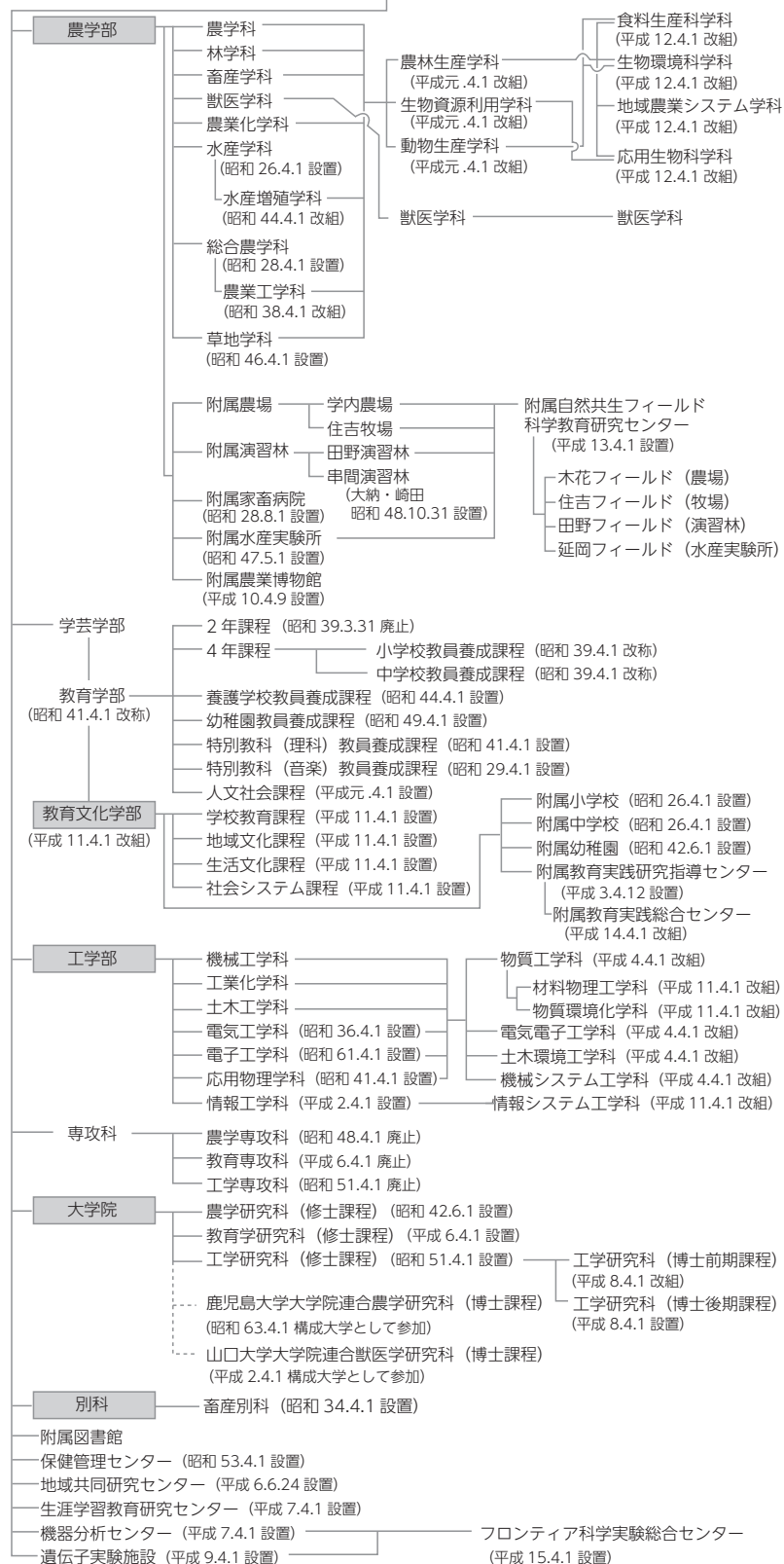
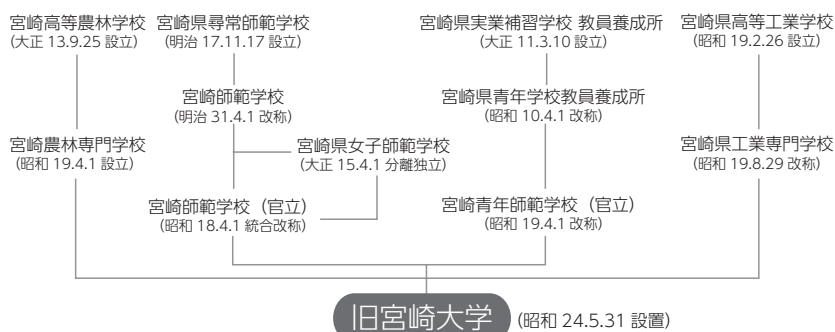
<https://www.miyazaki-u.ac.jp/facilities/related-facility/overseas-offices-ja.html>



資料編

資料編 CONTENTS

沿 革	15
沿 革 [年表]	17
機構図	21
役職員	22
職員数	23
歴代学長	23
学 部	24
大学院・寄附講座・共同研究講座	25
附属図書館	26
医学部附属病院	27
学生・生徒・児童及び園児数	28
令和 8 年度入学状況	31
卒業者・修了者数	33
博士の学位授与者数	34
令和 7 年度就職状況	35
奨学金利用者状況	36
国際交流	37
海外連携協定機関	38
国内連携協定機関	40
令和 7 年度公開講座実施状況	41
令和 7 年度経理状況	42
学生関係施設	44
土地・建物	45
施設所在地	46



国立大学法人宮崎大学

(平成 16.4.1 法人化)



太字は現在の組織を示す。

沿革 [年表]

年月日	旧宮崎大学	宮崎医科大学
S24. 5.31	宮崎大学（農学部、学芸学部、工学部）の設置	
S26. 4. 1	学芸学部に附属小学校及び附属中学校を設置 農学部水産学科を設置	
S28. 4. 1	農学部総合農学科を設置	
8. 1	農学部附属家畜病院を設置	
S29. 4. 1	学芸学部特別教科（音楽）教員養成課程を設置	
S31. 4. 1	農学専攻科を設置し、修業期間を1年とした	
S34. 4. 1	学芸専攻科、工業専攻科及び別科（畜産別科）を設置し、それぞれ修業期間を1年とした	
S36. 4. 1	工学部電気工学科を設置	
S38. 4. 1	農学部総合農学科を改組し、農業工学科を設置	
S39. 3.31	学芸学部2年課程を廃止	
4. 1	学芸学部4年課程第一部及び第二部をそれぞれ小学校 教員養成課程及び中学校教員養成課程に改称	
S41. 4. 1	学芸学部を教育学部に改称 教育学部に特別教科（理科）教員養成課程、工学部に 応用物理学科を設置	
S42. 6. 1	大学院農学研究科（修士課程）を設置 教育学部附属幼稚園を設置	
S44. 4. 1	農学部水産学科を改組し、水産増殖学科を設置 教育学部養護学校教員養成課程を設置	
S46. 4. 1	農学部草地学科を設置	
S47. 5. 1	農学部附属水産実験所を設置	
S48. 4. 1	農学専攻科を廃止	
10. 1		宮崎大学に「国立医科大学（宮崎県）創設準備室」を設置
10.31	串間演習林（大納・崎田）を設置	
S49. 4. 1	教育学部幼稚園教員養成課程を設置	
6. 7		宮崎医科大学の設置 （国立医科大学（宮崎県）創設準備室を廃止）
S50. 4. 1		附属病院創設準備室を設置
S51. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を設置 工学専攻科を廃止	
S52. 4.18		医学部附属病院を設置（附属病院創設準備室を廃止）
10.31		医学部附属病院開院（320床）
S53. 4. 1	保健管理センターを設置	
S54. 2. 7		医学部附属病院の病床が120床増床される（計440床）
6. 1		医学部附属病院の病床が160床増床される（計600床）
8.10	文部省、宮崎大学の移転統合を正式に認可	
12.27	農学部農業博物館を博物館相当施設として指定（文部 省告示）	
S55. 4. 1		大学院医学研究科（博士課程）を設置 医学部附属動物実験施設を設置
S59.11.19	農学部第1次移転完了	
S60. 1.24	農学部第2次移転完了	
S61. 3.18	事務局の移転完了	
3.31	学生部及び保健管理センターの移転完了	
4. 1	工学部電子工学科を設置	
4.22		保健管理センターを設置
9.13	工学部及び計算機・分析両センターの移転完了	
S62. 8.31	附属図書館の移転完了	

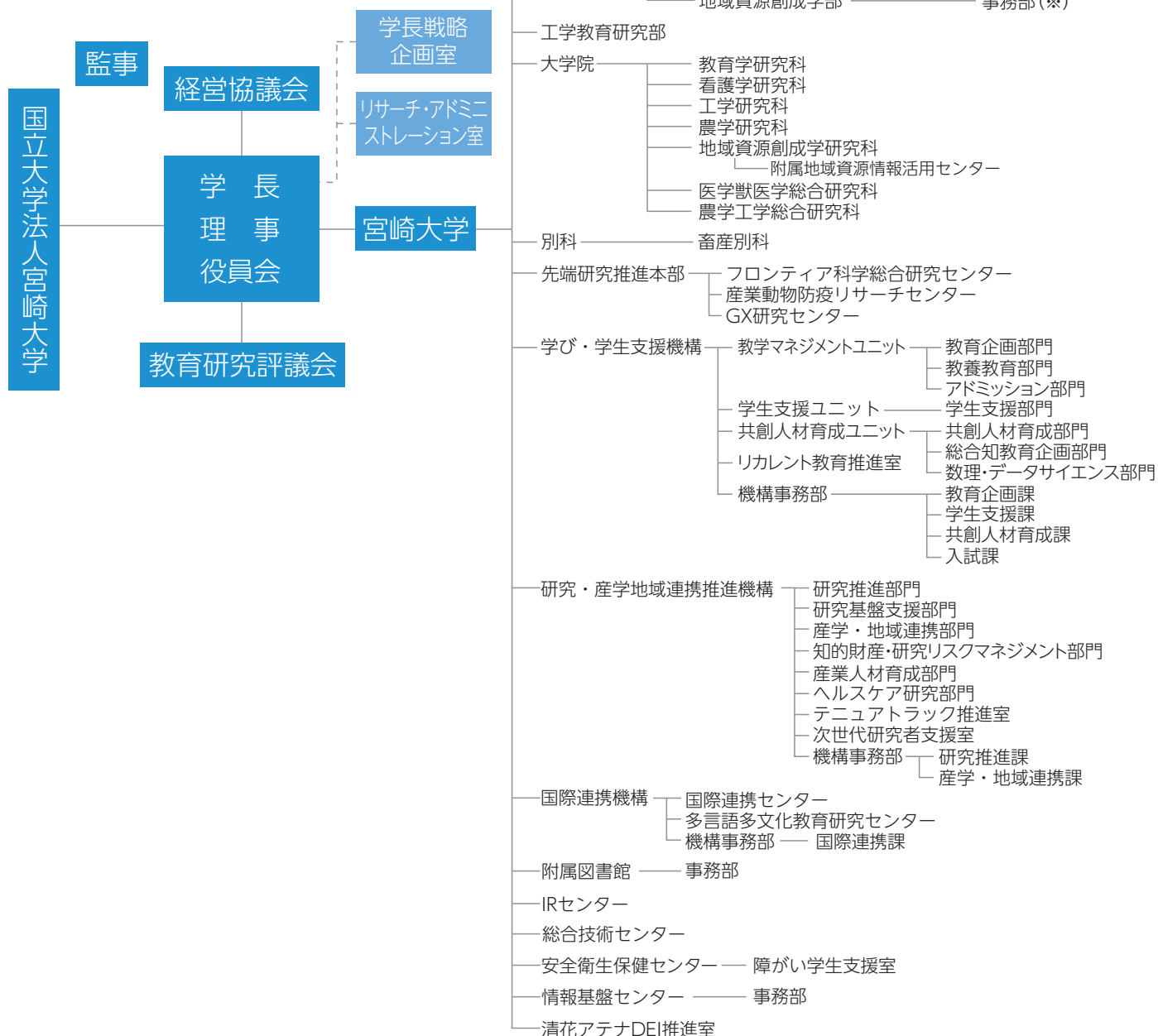
年月日	旧宮崎大学	宮崎医科大学
S63. 4. 1	鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
5.25		医学部附属病院輸血部を設置
9. 7	教育学部の移転完了	
H元. 4. 1	農学部改組 教育学部人文社会課程を設置	
10. 1	計算機センターを情報処理センターに改称	
H 2. 4. 1	工学部情報工学科を設置 山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
6. 8		医学部附属病院救急部を設置
H 3. 4.12	教育学部附属教育実践研究指導センターを設置	
H 4. 4. 1	工学部改組 地域交流センター（学内措置）を設置（後に地域共同研究センター、生涯学習教育研究センターへ改組）	
4.10		医学部附属病院集中治療部を設置
H 6. 4. 1	大学院教育学研究科（修士課程）を設置 教育専攻科を廃止	
5.20		医学部附属実験実習機器センターを設置 医学部附属病院医療情報部を設置
6.24	地域共同研究センターを設置	
10. 1		特定機能病院として承認
H 7. 4. 1	生涯学習教育研究センター及び機器分析センターを設置 分析センター廃止	
H 8. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を改組し、大学院工学研究科（博士前期課程）を設置 大学院工学研究科（博士後期課程）を設置	医学部附属病院周産母子センターを設置
H 9. 4. 1	遺伝子実験施設を設置	
H10. 4. 1		医学部附属病院病理部を設置
4. 9	農学部附属農業博物館を設置	
H11. 4. 1	教育学部を改組し、教育文化学部に変更 工学部改組	情報処理センターを設置
H12. 4. 1	農学部改組	医学部附属病院光学医療診療部を設置
H13. 4. 1	附属農場、附属演習林及び附属水産実験所を統合して、農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センターを設置	医学部看護学科を設置
12.14	総合研究棟を新築	
H14. 4. 1	教育文化学部附属教育実践研究指導センターを附属教育実践総合センターに改組	医学部附属病院リハビリテーション部を設置
H15. 2.17		病院機能評価認定
4. 1	フロンティア科学実験総合センターを設置 （機器分析センター、遺伝子実験施設、アイソトープセンターを廃止）	大学院医学研究科医科学専攻（修士課程）を設置 フロンティア科学実験総合センターを設置 （動物実験施設、実験実習機器センターを廃止）

年月日	宮崎大学
H15.10. 1	旧宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、新「宮崎大学」を設置 大学教育研究企画センター及び総合情報処理センターを設置 情報処理センターを廃止
H16. 3.26	サテライト・オフィスを宮崎市中心部（カリノ宮崎8階ガガイト）に設置 総合教育研究棟を新築（清武キャンパス）
4. 1	国立大学の法人化に伴い、法人の設置する宮崎大学となる
H17. 4. 1	保健管理センターを改組し、安全衛生保健センターを設置 大学院医学研究科を医学系研究科に改称し、看護学専攻（修士課程）を設置

年月日	宮崎大学
H18. 4. 1	地域共同研究センターを改組し、産学連携支援センターを設置 国際連携センターを設置 医学部附属病院再整備開始
H19. 4. 1	大学院工学研究科（博士後期課程）を廃止し、農学工学総合研究科（博士後期課程）を設置 鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士課程）から農学部が離脱 大学院工学研究科（博士前期課程）を大学院工学研究科（修士課程）に改称 生涯学習教育研究センターと大学教育研究企画センターを統合し、教育研究・地域連携センターを設置 産学連携支援センターを産学連携センターに改称 農学部附属家畜病院を農学部附属動物病院に改称 宮崎大学くすの木保育園を開園
8. 1	情報戦略室を設置
11. 1	総合情報処理センターを廃止し、情報支援センターを設置
12.26	医学部附属病院橘通り歯科口腔外科クリニックを設置
H20. 2. 8	都道府県がん診療連携拠点病院に指定
4. 1	大学院教育学研究科（専門職学位課程）を設置 教育文化学部を改組 大学院医学系研究科（博士課程）を改組 医学部附属病院周産母子センターを改組し、医学部附属病院総合周産期母子医療センターを設置
11.15	木花キャンパス移転20周年記念事業挙行
H21. 7.24	医学部附属病院が肝疾患診療連携拠点病院に指定
H22. 4. 1	大学院医学系研究科（博士課程）を廃止し、医学獣医学総合研究科（博士課程）を設置 大学院医学系研究科（修士課程）を医科学看護学研究科（修士課程）に改称 山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）から離脱 農学部を改組
H22. 5. 6	医学部附属病院新外来診療棟で診療を開始
8. 4	サテライト・オフィスを宮崎市中心部（橘通西3丁目MCCビル1階）に移転
10. 1	産学連携センター及び教育研究・地域連携センターを改組し、産学・地域連携センター及び教育・学生支援センターを設置 情報戦略室と情報支援センターを統合し、情報基盤センターを設置 農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センターを農学部附属フィールド科学教育研究センターに改称
H23.10. 1	産業動物防疫リサーチセンターを設置 医学部附属病院地域総合医育成センターを設置
H24. 2. 1	医学部血液・血管先端医療学講座（寄附講座）を設置
4. 1	工学部を改組 医学部附属病院救命救急センターを設置
4.18	医学部附属病院において、ドクターヘリの運航を開始
H25. 3. 1	医学部附属病院救命救急センター棟を設置
3.31	医学部附属病院再整備完了
7. 1	語学教育センターを設置
10. 1	IR 推進センターを設置 教育文化学部附属教育実践総合開発センターを改組し、教育文化学部附属教育協働開発センターを設置
10.19	創立330記念事業統合10周年記念講演会・式典・祝賀会を開催
11.21	産業動物教育研究センターを設置
H26. 4. 1	大学院医科学看護学研究科（修士課程）を廃止し、看護学研究科（修士課程）及び医学獣医学総合研究科（修士課程）を設置 大学院農学研究科（修士課程）を改組
4.14	医学部附属病院において、ドクターカーの運行を開始
11. 8	創立330記念事業（落成式、記念式典・祝賀会）を開催
H27. 4. 1	障がい学生支援室を設置 宮崎市立田野病院及び宮崎市介護老人保健施設さざんか苑の指定管理運営を開始 宮崎大学医学部附属病院コミュニティ・メディカルセンターを開設
10. 1	医療人育成支援センターを設置
H28. 4. 1	地域資源創成学部を設置 教育文化学部を教育学部に改称 大学院工学研究科（修士課程）を改組
H29. 2. 1	サテライト・オフィスを廃止し、宮崎大学まちなかキャンパスを宮崎市中心部（橘通東3丁目村武ビル1階）に設置
4. 1	産学・地域連携センター地域デザイン講座（寄附講座）を設置
H30.10. 1	農学部MIYADAI TAIYO Aoifarm Lab（共同研究講座）を設置 医学部宮崎小児地域医療学・次世代育成支援講座（寄附講座）を設置 医学部附属病院に IVR センターを設置 医学部附属病院に臨床腫瘍科を設置

年月日	宮崎大学
H31. 2.20	医学部附属病院歯科口腔外科橋通りクリニックを閉院
R元 .11. 1	医学部医療環境イノベーション講座 Collaboration Labo. M&N（共同研究講座）を設置
R 2. 1. 1	フロンティア科学実験総合センターを改組し、フロンティア科学総合研究センターを設置 安全衛生保健センターに障がい学生支援室を移管し改組 語学教育センターを多言語多文化教育研究センターに改称 学術情報統括機構を設置し、情報基盤センター及び附属図書館を配置
1. 9	附属図書館医学分館がリニューアルオープン
4. 1	大学院地域資源創成学研究科を設置 大学院地域資源創成学研究科附属地域資源情報活用センターを設置 大学院教育学研究科（専門職学位課程）を改組 大学院教育学研究科（修士課程）を廃止 産学・地域連携センターを改組 医学部地域包括ケア・総合診療医学講座（寄附講座）を設置 地域資源創成学部地域経営学講座（寄附講座）を設置
5. 1	医学部生体制御医学研究講座（共同研究講座）を設置
7.15	附属図書館本館がリニューアルオープン
9.29	医学部附属病院患者付添者等宿泊施設「宮崎ドライビングスクールpresents THE CROSS ROADS」を設置
R 3. 4. 1	工学部を改組 医学部災害医療・救急医療支援講座（寄附講座）を設置 国際連携センター外国人ICT技術者人材育成学講座（寄附講座）を設置 医療人育成支援センターを医療人育成推進センターに改称 医学部附属病院に難病・アレルギーセンターを設置 医学部附属病院に診療情報管理部を設置
6. 1	農学部先端バイオ素材創生学講座（共同研究講座）を設置
R 4. 3.31	宮崎市介護老人保健施設さざんか苑の閉苑 病院IR部（前・医療情報部）を廃止
4. 1	医学部附属病院膠原病・感染症内科を膠原病内科、感染症内科に再編
7. 1	IR推進センターをIRセンターに改称
10. 1	基礎教育部、教育・学生支援センター、産学・地域連携センターを改組し、学び・学生支援機構、研究・産学地域連携推進機構を設置 国際連携機構を設置し、国際連携センター及び多言語多文化教育研究センターを配置
R 5. 4. 6	宮崎大学医学部附属病院 看護師特定行為研修センターを開設
7. 1	学術情報統括機構を廃止（情報基盤センター及び附属図書館は大学直下に配置） 清花アテナDEI 推進室を設置
R 6. 4. 1	先端研究推進本部、GX研究センターを設置
10.13	医学部・旧宮崎医科大学開講50周年記念事業（記念式典・演奏会・祝賀会）を開催
11. 2	農学部創立100周年記念式典挙行
R 7. 1. 1	医学部附属病院に臨床研究監査部を設置
4. 1	農学部を改組（獣医学科を除く5学科を再編して農学科を新設） 農学部附属フィールド科学教育研究センターを農学部附属次世代農学教育研究センターに改称し、先端フィールド実践部門および地域共創・異分野融合推進部門を設置 医学部スポーツメディカルセンターを設置 医学部総合診療科学講座を設置 医学部地域包括ケア・総合診療医学講座（寄附講座）を地域包括ケア学講座（寄附講座）に改称 総合技術センターを設置 宮崎大学くすの木保育園を宮崎大学くすの木保育室に改称 宮崎大学まちなかキャンパスを廃止し、錦本町ひなたキャンパスを宮崎市中心部（錦本町4番5号）に設置
5. 1	リサーチ・アドミニストレーション室を設置
7. 1	医学部附属病院救命救急センターが高度救命救急センターに指定
R 8. 3.31	宮崎大学くすの木保育室を閉室
4. 1	医学部附属病院において、木曜休診・土曜診療を開始

機構図



(※) 共同事務部

役職員

役員会委員 : ◎印
 経営協議会委員 : ●印
 教育研究評議会評議員 : ○印 (令和8年7月1日現在)

学長		鯨島 浩	◎●○
理事	副学長（研究・企画担当）	片岡 寛章	◎●○
	副学長（教育・学生担当）	藤井 良宜	◎●○
	医学部附属病院長（病院担当）	賀本 敏行	◎●○
	副学長（人事・基金・SDGs担当）	明石 良	◎●○
	副学長（国際担当）	吉成 安恵	◎●○
	事務局長（総務担当）	坂本 秀敬	◎ ○
	法務担当	日野 直彦	◎
監事		久保 昌広	
		川島 秀文	
経営協議会 学外委員	ANAホールディングス株式会社特別顧問	伊東 信一郎	●
	日機装株式会社相談役	甲斐 敏彦	●
	学校法人宮崎総合学院理事長	川越 宏樹	●
	アイ・プラス株式会社代表取締役	河野 愛	●
	（公社）宮崎県医師会会長	河野 雅行	●
	（株）宮崎銀行代表取締役頭取	杉田 浩二	●
	（株）宮崎日日新聞社取締役総務局長	吉岡 智子	●
理事補佐	テニユアトラック推進・男女共同参画推進担当	伊達 紫	
	次世代研究者支援担当	池田 正浩	
副学長	（目標・評価担当）	酒井 剛	○
	（入試担当）	河原 聡	○
	（教養教育・教学マネジメント担当）	白上 努	○
	（産学・地域連携担当・特命事項）	淡野 公一	○
教育研究 評議会評議員	教育学部教授	中村 佳文	○
	医学部教授	西頭 英起	○
	工学教育研究部教授	田村 宏樹	○
	農学部教授	伊藤 哲	○
	地域資源創成学部教授	谷田貝 孝	○
学長戦略企画室	室長（併）	片岡 寛章	
リサーチ・アドミニ ストレーション室	室長（併）	片岡 寛章	
事務局	監査室長	中原 純子	
	企画総務部長	徳成 彰彦	
	総務広報課長	吉田 瑞枝	
	企画評価課長	佐藤 大希	
	人事課長	守矢 浩	
	財務部長	高木 貴	
	財務課長	佐坂 則明	
	経理調達課長	新野 さくら	
	施設環境部長	宮下 秩	
	企画管理課長	井尾 健一	
	施設整備課長	小島 輝彦	
教育学部	学部長	戸ヶ崎 泰子	○
	附属教育協働開発センター長	幸 秀樹	
	附属学校園統括長	新地 辰朗	
	附属幼稚園長	高橋 京子	
	附属小学校長	池川 由美	
	附属中学校長	猪野 貴一	
	教育学部・地域資源創成学部事務長	原 典子	
医学部	学部長	盛武 浩	○
	医学部附属病院長	賀本 敏行	

医学部	事務部長	野澤 勝信	
	総務課長	瀬口 智子	
	管理課長	松本 浩一	
	医事課長	平田 美紀	
	医療支援課長	本田 康則	
	医療人育成課長	中原 敏男	
	総務医事課長	奈須 広美	
	コミュニティ・メディカルセンター長	塩見 一剛	
工学部	学部長	鈴木 祥広	○
	事務長	橋口 幸治	
農学部	学部長	國武 久登	○
	附属次世代農学教育研究センター長	高木 正博	
	附属動物病院長	佐藤 裕之	
	附属農業博物館長	宇田 津徹朗	
	事務長	今屋 敷哲也	
地域資源創成学部	地域資源創成学部長	根岸 裕孝	○
工学教育研究部	工学教育研究部長（併）	鈴木 祥広	
	教育学研究科	研究科長（併）	戸ヶ崎 泰子
	専門職学位課程統括長	吉村 功太郎	
看護学研究科	研究科長（併）	野間口 千香穂	○
	工学研究科	研究科長（併）	鈴木 祥広
農学研究科	研究科長（併）	國武 久登	
	地域資源創成 学研究科	研究科長（併）	根岸 裕孝
	附属地域資源情報活用センター長	西 和盛	
医学獣医学総合研究科	研究科長（併）	丸山 治彦	○
	農学工学総合研究科	研究科長（併）	佐伯 雄一
先端研究推進本部	本部長（併）	片岡 寛章	
	学び・学生支援 機構	機構長（併）	藤井 良宜
	事務部長	佐藤 貴紀	
	教育企画課長	佐藤 さやか	
	学生支援課長	前原 信也	
	共創人材育成課長	鎌田 早苗	
	入試課長	永井 章仁	
研究・産学地域 連携推進機構	機構長（併）	片岡 寛章	
	事務部長	黒木 昌博	
	研究推進課長	佐々木 喜朗	
国際連携機構	産学・地域連携課長	佐藤 美香	
	機構長（併）	吉成 安恵	
	国際連携センター長（併）	吉成 安恵	
	多言語多文化教育研究センター長（併）	吉成 安恵	
	国際連携課長	甲斐 榮一	
フロンティア科学 総合研究センター	センター長（併）	越本 知大	○
	産業動物防疫 リサーチセンター	センター長（併）	吉田 彩子
GX研究センター	センター長（併）	西岡 賢祐	○
IRセンター	センター長（併）	酒井 剛	
総合技術センター	センター長（併）	片岡 寛章	
安全衛生保健 センター	センター長（併）	武田 龍一郎	
情報基盤センター	センター長（併）	廿日出 勇	
附属図書館	事務長	杉本 佳彦	
	館長（併）	藤井 良宜	
	事務長	寸田 五郎	
清花アテナDEI推進室	室長	児玉 由紀	

大学について

教育の特色

研究の特色

学部・別科・大学院

部局・附属施設等

地域貢献

資料編

キャンパスマップ

職員数

(令和8年5月1日現在)

部局等	区 分	学長	監事	理事	教授	准教授	講師	助教	助手	小計	附属学 校教員	事務局 等職員	合 計
学長		1											1
監事			2(1)										2(1)
理事				7(1)									7(1)
事務局												107	107
教育学部					22	24	11			57			
教育学研究科					14	5				19		14	90
附属幼稚園											6		
附属小学校											28	7	68
附属中学校											27		
医学部					55	29	13	95	7	199		291	490
附属病院					5	8	22	105	2	142		999	1,141
工学部												18	18
工学教育研究部					41	36		18		95			95
農学部					43	39		8		90		20	110
附属次世代農学教育研究センター					3	3	1	1		8		8	16
附属動物病院					1	1		2		4		7	11
附属農業博物館					1					1			1
地域資源創成学部					8	14	5	1		28		11	39
地域資源創成学研究科													
先端研究推進本部					1					1			1
フロンティア科学総合研究センター					2	4	1	3		10			10
産業動物防疫リサーチセンター					4	1				5		2	7
GX 研究センター					1	1				2		1	3
学び・学生支援機構						2	2	1	1	6		41	47
研究・産学地域連携推進機構					3	7	1	3		14		32	46
国際連携機構					2	4	2	1		9		10	19
附属図書館												10	10
IR センター							1			1			1
総合技術センター												45	45
安全衛生保健センター					1	1	2			4		3	7
情報基盤センター						1		1		2		7	9
計		1	2(1)	7(1)	207	180	61	239	10	697	61	1,633	2,401(2)

※常勤職員数（ただし、監事（）・理事（）については、非常勤で内数）

歴代学長

旧宮崎大学			宮崎医科大学		
氏名	在任期間	備考	氏名	在任期間	備考
高 橋 隆 道	S24. 5.31～S27. 7.25		勝木 司馬之助	S49. 6. 7～S55. 6.30	
杉 原 清 一	S27. 7.26～S28. 8. 1	(事務取扱)	玉 井 達 二	S55. 7. 1～S61. 3.31	
栗 原 一 男	S28. 8. 1～S32. 7.31		常 俊 義 三	S61. 4. 1～S61. 5.31	(事務取扱)
甲 斐 三 郎	S32. 8. 1～S38. 7.31		岡 本 直 正	S61. 6. 1～H 2. 3.31	
岩 村 昂	S38. 8. 1～S42. 7.31		木 下 和 夫	H 2. 4. 1～H 8. 3.31	
廣 田 輝 雄	S42. 8. 1～S46. 7.31		森 満 保	H 8. 4. 1～H14. 3.31	
外 山 三 郎	S46. 8. 1～S50. 7.31		松 尾 壽 之	H14. 4. 1～H15. 9.30	
井 上 由 扶	S50. 8. 1～S56. 7.31				
三 善 正 市	S56. 8. 1～S58.10.16				
木 村 正 雄	S58.10.16～S58.11.30	(事務取扱)			
遠 藤 尚	S58.12. 1～H元.11.30				
池 田 一	H元.12. 1～H 7.11.30				
二 神 光 次	H 7.12. 1～H13.11.30				
藤 原 宏 志	H13.12. 1～H15. 9.30				
宮崎大学					
	住 吉 昭 信	H15.10. 1～H21. 9.30			
	菅 沼 龍 夫	H21.10. 1～H27. 9.30			
	池 ノ 上 克	H27.10. 1～R 3. 9.30			
	鮫 島 浩	R 3.10. 1～			

学部	学科・課程	講座・コース・専攻・プログラム
教育学部	学校教育課程	小中一貫教育コース（小学校主免専攻，中学校主免専攻）
		教職実践基礎コース（教職実践基礎専攻）
		発達支援教育コース（子ども理解専攻，特別支援教育専攻）
医学部	医学科	基礎系医学講座 解剖学（組織細胞化学，超微形態科学，医学生物学） 機能制御学（統合生理学，循環動態生理学，血管動態生化学，機能生化学，薬理学，生命分子科学，蛋白質機能学） 病理学（構造機能病態学，腫瘍形態病態学） 感染症学（微生物学，寄生虫学，免疫学） 社会医学（公衆衛生学，法医学，生命・医療倫理学，研究の倫理と政策学，データマネジメント，英語）
		臨床系医学講座 内科学（循環器・腎臓内科学，血液・糖尿病・内分泌内科学，呼吸器・膠原病・感染症・脳神経内科学，消化器内科学） 外科学（肝胆脾外科学，消化管・内分泌・小児外科学，心臓血管外科学，呼吸器・乳腺外科学，形成外科学） 臨床神経科学（精神医学，脳神経外科学） 発達泌尿生殖医学（小児科学，泌尿器科学，産婦人科学） 感覚運動医学（整形外科，皮膚科学，眼科学，耳鼻咽喉・頭頸部外科学，顎顔面口腔外科学） 病態解析医学（放射線医学，麻酔生体管理学，救急・災害医学） 総合診療科学
	看護学科	生活・基盤看護科学講座，子育て世代・子ども健康看護科学講座，統合臨床看護科学講座
工学部	工学科	化学生命プログラム
		土木環境プログラム
		半導体サイエンスプログラム
		電気電子システムプログラム
		機械知能プログラム
		情報通信プログラム
農学部	農学科	動植物資源生命科学コース
		森林環境持続性科学コース
		海洋生命科学コース
	獣医学科	応用生命化学コース
地域資源創成学部	地域資源創成学科	企業マネジメントコース
		地域産業創出コース
		地域創造コース

大学院・寄附講座・共同研究講座

大 学 院

研究科	専 攻	専修・分野・部門・講座・領域・コース
教育学研究科 (専門職学位課程)	教職実践開発専攻 (教職大学院)	教職実践高度化コース (教育行政・学校経営分野, 生徒指導・教育相談分野, 教育課程・授業研究分野) 教科領域指導力高度化コース (言語教育系(国語・英語) 領域, 理数教育系(数学・理科) 領域, 社会認識教育系(社会) 領域, 芸術教育系(音楽・美術) 領域, スポーツ・生活科学教育系(保健体育・技術・家庭) 領域) 特別支援教育コース
看護学研究科 (修士課程)	看護学専攻	研究者育成コース (基盤システム看護学領域, 地域・精神看護学領域, 成人・老年療養支援看護学領域, 母子健康看護学領域) 実践看護者育成コース (がん看護領域, 実践助産学領域, 実践助産学開発領域)
工学研究科 (修士課程)	工学専攻	先端情報コース 環境コース 電気・半導体コース 機械コース
農学研究科 (修士課程)	農学専攻	植物生産環境科学コース, 森林緑地環境科学コース, 応用生物科学コース, 海洋生物環境科学コース, 畜産草地科学コース, 農学国際コース
地域資源創成学研究科 (修士課程)	地域資源創成学専攻	
医学獣医学総合研究科 (修士課程)	医科学獣医科学専攻	生命科学研究者育成コース, 高度医療関連技師・サービスイノベー ション人材養成コース, 生命倫理コーディネーターコース
医学獣医学総合研究科 (博士課程)	医学獣医学専攻	高度臨床医育成コース, 高度獣医師育成コース, 研究者育成コース
農学工学総合研究科 (博士後期課程)	資源環境科学専攻	環境共生科学教育コース, 持続生産科学教育コース
	生物機能応用科学専攻	生命機能科学教育コース, 水域生物科学教育コース
	物質・情報工学専攻	新材料エネルギー工学教育コース, 生産工学教育コース, 数理情報工学教育コース

寄附講座

部局名	講座名	設置期間	寄附者
医学部	血液・血管先端医療学講座	平成 23 年～	宮崎県、延岡市
	宮崎小児地域医療学・次世代育成 支援講座	平成 30 年～	宮崎市
	地域包括ケア学講座 (～令和 6 年地域包括ケア・総合診療 医学講座)	令和 2 年～	一般財団法人 つの未来まちづくり推進機構
	災害医療・救急医療支援講座	令和 3 年～	小林市
地域資源創成学部	地域経営学講座	令和 2 年～	一般財団法人つの未来まちづくり推進機構

共同研究講座

部局名	講座名	設置期間	共同研究者
医学部	医療環境イノベーション講座 Collaboration Labo. M&N	令和元年～	日機装株式会社

附属図書館

蔵書構成（本館）

（令和8年5月1日現在） 単位：冊

区分	総記	哲学・宗教	歴史・地理	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・美術	言語	文学	合計
和漢書	18,986	19,437	31,115	103,483	65,514	47,194	32,091	20,118	12,357	29,441	379,736
洋書	4,137	7,390	4,854	18,306	40,014	11,361	10,007	2,251	4,714	11,973	115,007
合計	23,123	26,827	35,969	121,789	105,528	58,555	42,098	22,369	17,071	41,414	494,743

蔵書構成（医学分館）

（令和8年5月1日現在） 単位：冊

区分	基礎教育等（和洋）							専門教育等									合計
	人文	社会	自然	外国語	保健 体育	その他	小計	基礎医学			臨床医学			看護学			
								和書	洋書	小計	和書	洋書	小計	和書	洋書	小計	
蔵書	6,331	5,069	6,821	4,287	463	511	23,482	12,644	22,002	34,646	26,747	35,862	62,609	5,315	590	5,905	126,642

雑誌情報

単位：タイトル

区分	所蔵	
	本館	医学分館
和雑誌	8,322	2,291
洋雑誌	2,756	1,733
合計	11,078	4,024

開館時間

	本館		医学分館	
	授業期	休業期	授業期	休業期
月曜日～金曜日	8:40～21:00	9:00～17:00	9:00～20:00	9:00～17:00
土曜日・日曜日	9:00～17:00	休館	13:00～17:00	休館
祝日	休館	休館	休館	休館

休館日

休業期間中の土曜日・日曜日、国民の祝・休日、年末年始（12/28-1/4）

※その他、臨時に開館時間の変更や休館を行う場合は掲示する。

利用状況

（令和7年度）

区分		本館		医学分館	
入館者（人） [うち学外者（人）]		157,017 [10,850]		68,647 [97]	
貸出		人数（人）	冊数（冊）	人数（人）	冊数（冊）
	学生	4,387	8,530	576	948
	教職員	744	1,606	267	425
	学外者	292	660	6	14
	合計	5,423	10,796	849	1,387
レファレンスサービス（件）		883		809	
学外文献 複写	依頼（件）	603		406	
	受付（件）	103		218	

医学部附属病院

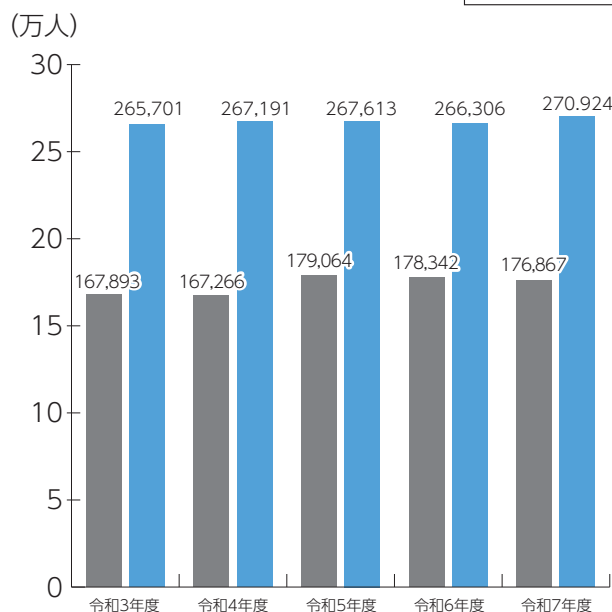
令和7年度 医学部附属病院患者数

区 分 科 名	入 院			外 来			
	病床数	入院患者	1日平均	外来患者			1日平均
		延数	患者数	初 診	再 診	延べ患者数	患者数
循環器内科	29	10,280	28.2	1,004	7,908	8,912	36.8
腎臓内科	11	3,145	8.6	183	2,664	2,847	11.8
血液内科	36	11,505	31.5	396	6,428	6,824	28.2
脳神経内科	21	7,011	19.2	582	6,537	7,119	29.4
呼吸器内科	18	6,615	18.1	468	3,558	4,026	16.6
内分泌・代謝・糖尿病内科	10	2,242	6.1	530	10,491	11,021	45.5
膠原病内科	12	4,082	11.2	364	8,354	8,718	36.0
感染症内科	3	796	2.2	65	415	480	2.0
消化器内科	41	15,338	42.0	1,408	14,695	16,103	66.5
小児科	21	9,241	25.3	848	16,398	17,246	71.3
肝胆膵外科	57	2,010	5.5	197	1,184	1,381	5.7
消化管・内分泌・小児外科		8,618	23.6	588	4,744	5,332	22.0
心臓血管外科		4,982	13.6	253	1,597	1,850	7.6
呼吸器・乳腺外科		3,436	9.4	422	4,092	4,514	18.7
形成外科		630	1.7	137	1,261	1,398	5.8
整形外科	55	18,318	50.2	1,962	60,146	62,108	256.6
皮膚科	13	4,355	11.9	1,029	13,264	14,293	59.1
泌尿器科	18	5,915	16.2	643	9,079	9,722	40.2
眼科	23	7,431	20.4	1,969	19,054	21,023	86.9
耳鼻いんこう・頭頸部外科	27	10,234	28.0	1,304	10,117	11,421	47.2
産科・婦人科	22	11,263	30.9	800	8,436	9,236	38.2
放射線科	1	253	0.7	265	2,140	2,405	9.9
麻酔科	1	33	0.1	391	3,978	4,369	18.1
脳神経外科	21	7,908	21.7	404	4,590	4,994	20.6
歯科口腔外科・矯正歯科	14	4,181	11.5	3,084	18,253	21,337	88.2
救急	20	8,915	24.4	1,023	364	1,387	5.7
臨床腫瘍科	36	8,130	22.3	161	3,536	3,697	15.3
精神科				259	6,902	7,161	29.6
合 計	※ 604	176,867	484.6	20,739	250,185	270,924	1,120

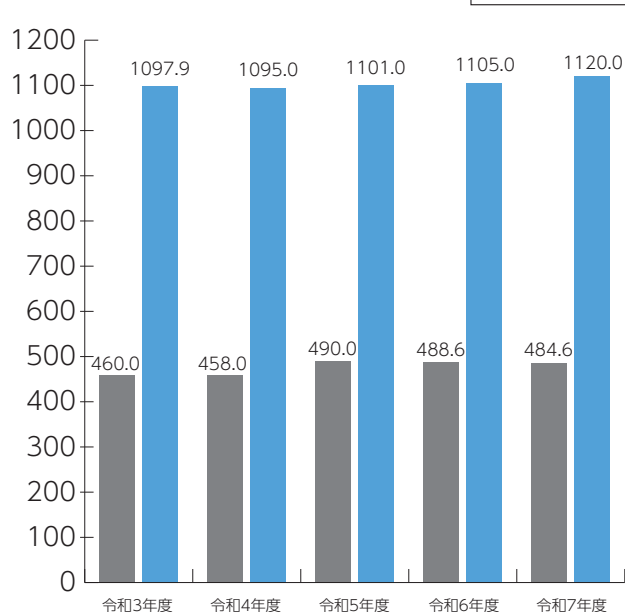
※その他の病床 94 床を含む

年度別患者数

延患者数



1日平均患者数



学生・生徒・児童及び園児数

1. 学 部

(令和8年5月1日現在)

学 部	学科・課程	定 員		現 員						
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
教 育 学 部	学校教育課程	140	540	153	151	149	132			585
	計	140	540	153	151	149	132			585
医 学 部	医学科	100	610	106	105	101	109	108	103	632
	看護学科	60	240	63	62	64	60			249
	計	160	850	169	167	165	169	108	103	881
工 学 部	工学科	{10} 370	{20} 1,480	381	(2) 367	(1) 374	(2) 426			(5) 1,548
	環境応用化学科						2			2
	社会環境システム工学科						1			1
	環境ロボティクス学科						1			1
	機械設計システム工学科						1			1
	電子物理工学科						3			3
	電気システム工学科						2			2
	情報システム工学科						5			5
	計	{10} 370	{20} 1,480	381	(2) 367	(1) 374	(2) 441			(5) 1,563
農 学 部	農学科	235	470	238	(1) 247					(1) 485
	植物生産環境科学科	-	102			(1) 51	(1) 63			(2) 114
	森林緑地環境科学科	-	102			50	53			103
	応用生物科学科	-	112			53	(1) 62			(1) 115
	海洋生物環境学科	-	63			(1) 32	(1) 37			(2) 69
	畜産草地科学科	-	111			50	68			118
	獣医学科	30	180	34	34	32	33	31	42	206
	計	{若干人} 265	{若干人} 1,140	272	(1) 281	(2) 268	(3) 316	31	42	(6) 1,210
地 域 資 源 創 成 学 部	地域資源創成学科	90	360	(1) 95	102	(1) 91	101			(2) 389
	計	90	360	(1) 95	102	(1) 91	101			(2) 389
合計		{10} 1,025	{20} 4,370	(1) 1,070	(3) 1,068	(4) 1,047	(5) 1,159	139	145	(13) 4,628

() 内は外国人留学生で内数

{ } 内は第3年次編入学定員分で外数

大学について

教育の特色

研究の特色

学部・別科・大学院

部局・附属施設等

地域貢献

資料編

キャンパスマップ

2. 大学院（修士課程）

（令和8年5月1日現在）

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	計
看護学研究科	看護学専攻	10	20	(2) 12	(2) 15	(2) 27
工学研究科	工学専攻	144	288	(5) 168	(6) 152	(11) 320
農学研究科	農学専攻	68	136	(3) 78	(4) 73	(7) 151
地域資源創成学研究科	地域資源創成学専攻	5	10	6	7	13
医学獣医学総合研究科	医科学獣医科学専攻	10	20	(1) 10	(1) 13	(2) 23
合 計		237	474	(11) 274	(11) 260	(22) 534

（ ）内は外国人留学生で内数

3. 大学院（博士後期課程・博士課程）

（令和8年5月1日現在）

研究科	専攻	定員		現員				
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	計
医学獣医学総合研究科	医学獣医学専攻	23	92	(1) 21	(8) 30	(7) 23	(12) 62	(28) 136
	計	23	92	(1) 21	(8) 30	(7) 23	(12) 62	(28) 136
農学工学総合研究科	資源環境科学専攻	7	21	(1) 7	(4) 4	(3) 9		(8) 20
	生物機能応用科学専攻	4	12		(3) 6	(2) 9		(5) 18
	物質・情報工学専攻	5	15	(5) 12	(7) 10	(4) 14		(16) 36
	計	16	48	(6) 22	(14) 20	(9) 32		(29) 74
合 計		39	140	(7) 43	(22) 50	(16) 55	(12) 62	(57) 210

（ ）内は外国人留学生で内数

4. 専門職大学院（専門職学位課程）

（令和8年5月1日現在）

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	計
教育学研究科	教職実践開発専攻 （教職大学院）	20	40	14	21	35

5. 別 科

（令和8年5月1日現在）

別 科	専 修	定 員	現 員
畜産別科	畜産専修	4	6

6. 科目等履修生・研究生等

(令和8年5月1日現在)

学部・研究科		特別聴講学生	特別研究学生	科目等履修生	研究生	日本語・日本文化 研修留学生	教育研修留学生
学部	教育学部	4		3	1	1	
	医学部	1		1			
	工学部	1					
	農学部	7		2	1		
	地域資源創成学部	4					
大学院	教育学研究科		1		1		1
	看護学研究科						
	工学研究科				2		
	農学研究科		1				
	地域資源創成学研究科						
	医学獣医学総合研究科（修士）						
	医学獣医学総合研究科（博士）		1		2		
	農学工学総合研究科		1				
合計		17	4	6	7	1	1

7. 附属学校園

(令和8年5月1日現在)

令和6年3月1日現在

附属幼稚園	区 分		定 員				現 員				学級数
			3 歳児	4 歳児	5 歳児	計	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計	
	2 年次保育		-	20	20	40	-	16	9	25	計 5 学級
	3 年次保育		28	28	28	84	17	15	20	52	
	合計		28	48	48	124	17	31	29	77	

附属小学校	学校区分	定 員		現 員							学級数
		入学定員	収容定員	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	
	普通学級	96	594	96	96	90	91	99	99	571	計 18 学級 (各学年 3 学級)
	特別支援学級	2	16	2	1			1		4	計2学級 (1年、2・5年)
	合計	98	610	98	97	90	91	100	99	575	

附属中学校	学校区分	定 員		現 員						学級数	
		入学定員	収容定員	1 年	2 年	3 年	計				
	普通学級	144	432	144		143		141		428	計 12 学級 (各学年 4 学級)
	特別支援学級	4	12	4		2		4		10	計 2 学級 (1・2 年、3 年)
	合計	148	444	148		145		145		438	

令和8年度入学状況

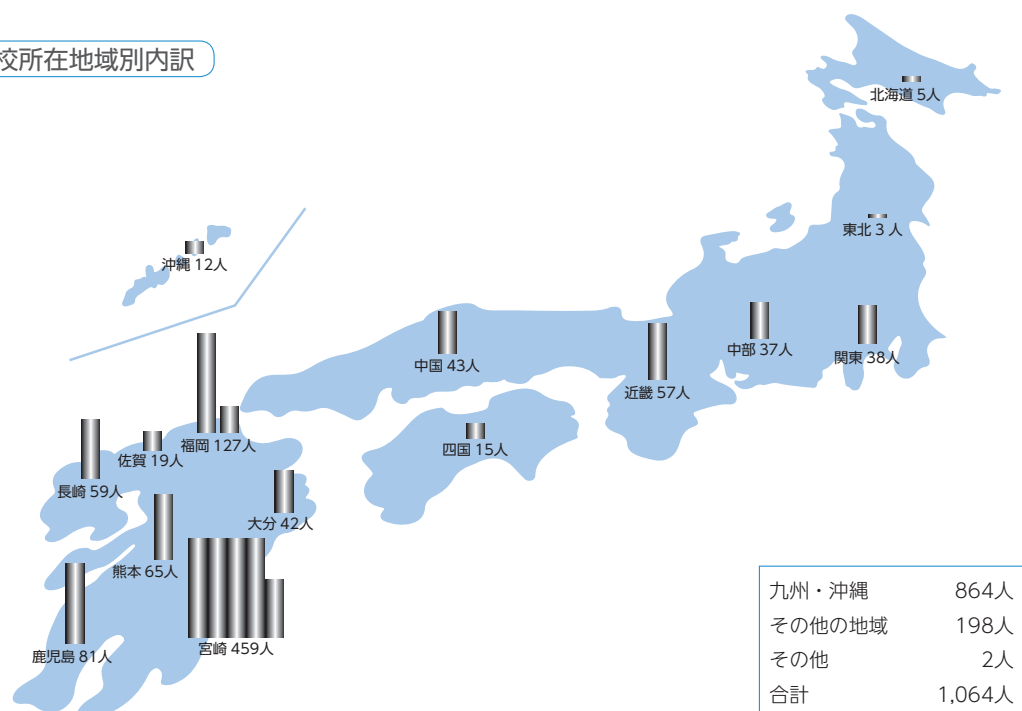
1. 学部

(令和8年5月1日現在)

学部	学科・課程		入学定員	志 願 者			入 学 者		
				男	女	計	男	女	計
教育学部	小中一貫教育コース	小学校主免専攻	70	154	225	379	27	49	76
		中学校主免専攻	35	48	51	99	22	17	39
	教職実践基礎コース		15	16	14	30	6	10	16
	発達支援教育コース	子ども理解専攻	10	12	48	60		11	11
		特別支援教育専攻	10	7	12	19	1	10	11
	計		140	237	350	587	56	97	153
	医学部	医学科		100	338	330	668	60	43
看護学科		60	6	112	118	5	58	63	
計		160	344	442	786	65	101	166	
工学部	工学科		370	(5) 1,138	(2) 218	(7) 1,356	316	65	381
	計		370	(5) 1,138	(2) 218	(7) 1,356	316	65	381
農学部	農学科		235	(1) 615	(1) 565	(2) 1,180	111	127	238
	獣医学科		30	(2) 96	(1) 184	(3) 280	16	18	34
	計		265	(3) 711	(2) 749	(5) 1,460	127	145	272
地域資源部 創成学部	地域資源創成学科		90	(1) 150	(1) 122	(1) 272	(1) 42	(1) 50	(1) 92
	計		90	(1) 150	(1) 122	(1) 272	(1) 42	(1) 50	(1) 92
合 計			1,025	(9) 2,580	(4) 1,881	(13) 4,461	(1) 606	(1) 458	(1) 1,064

() 内は外国人留学生で内数

出身高校所在地域別内訳



2. 大 学 院

(令和8年5月1日現在)

研 究 科	入学定員	志 願 者			入 学 者		
		男	女	計	男	女	計
教育学研究科（専門職学位）	20	6	10	16	4	10	14
看護学研究科（修士）	10	(1) 6	(1) 13	(2) 19	(1) 5	(1) 7	(2) 12
工学研究科（修士）	144	(1) 160	(2) 30	(3) 190	(1) 140	(2) 26	(3) 166
農学研究科（修士）	68	(2) 47	(2) 43	(2) 90	(2) 37	(2) 40	(2) 77
地域資源創成学研究科（修士）	5	(2) 4	(1) 6	(3) 10	1	5	6
医学獣医学総合研究科（修士）	10	(1) 2	(1) 8	(1) 10	(1) 2	(1) 8	(1) 10
医学獣医学総合研究科（博士）	23	(1) 11	(3) 10	(1) 21	(1) 11	(2) 10	(1) 21
農学工学総合研究科（博士後期）	16	(3) 20	(3) 6	(6) 26	(3) 16	(2) 5	(5) 21
計	296	(8) 256	(10) 126	(18) 382	(6) 216	(8) 111	(14) 327

() 内は外国人留学生で内数

3. 別 科

(令和8年5月1日現在)

別 科	入学定員	志 願 者			入 学 者		
		男	女	計	男	女	計
畜産別科	4	5	1	6	5	1	6

卒業生・修了者数

1. 学 部

■令和7年度 卒業生・修了者数

(令和8年5月1日現在)

学 部	学科・課程	令和7年度卒業生数
教育学部	学校教育課程	126
	計	126
医学部	医学科	103
	看護学科	62
	計	165
工学部	環境応用化学科	2
	社会環境システム工学科	4
	環境ロボティクス学科	1
	機械設計システム工学科	1
	電子物理工学科	1
	電気システム工学科	3
	情報システム工学科	1
	工学科	356
	計	369
農学部	植物生産環境科学科	51
	森林緑地環境科学科	59
	応用生物科学科	53
	海洋生物環境学科	36
	畜産草地科学科	55
	獣医学科	30
	計	284
地域資源創成学部	地域資源創成学科	92
	計	92
合 計		1,036

■令和7年度までの全卒業生・修了者数

(令和8年5月1日現在)

学 部	累 計
教育学部	13,115
教育文化学部	3,993
医学部	6,050
工学部	17,559
農学部	17,511
地域資源創成学部	623
合 計	58,851

※外国人留学生を含む

2. 大 学 院

(令和 8 年 5 月 1 日現在)

研 究 科	令和 7 年度修了者数	累 計
看護学研究科（修士）	8	91
工学研究科（修士）	176	2,495
農学研究科（修士）	69	2,708
地域資源創成学研究科（修士）	3	27
医学獣医学総合研究科（修士）	7	108
医学獣医学総合研究科（博士）	25	293
農学工学総合研究科（博士後期）	15	296
教育学研究科（修士）	-	587
医科学看護学研究科（修士）	-	81
医学系研究科（修士）	-	115
医学系研究科（博士）	-	444
工学研究科（博士前期）	-	1,999
工学研究科（博士後期）	-	113
合 計	303	9,357

※修了者数には満期退学者を含む

専門職大学院

(令和 8 年 5 月 1 日現在)

研 究 科	令和 7 年度修了者数	累 計
教育学研究科（専門職学位）	16	392

3. 専 攻 科

専 攻 科	全修了者数
教育専攻科	119
工学専攻科	30
農学専攻科	50
合 計	199

※平成 6 年度までにすべて廃止

4. 別 科

(令和 8 年 5 月 1 日現在)

別 科	令和 7 年度修了者数	累 計
畜産別科	2	341

博士の学位授与者数

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

区 分	課程博士		論文博士	
	令和 7 年度	累 計	令和 7 年度	累 計
医学獣医学総合研究科	25	295	0	9
医学系研究科	0	441	0	228
工学研究科	0	113	0	5
農学工学総合研究科	13	277	0	6
合 計	38	1,126	0	248

令和7年度就職状況

1. 学 部

(令和8年5月1日現在)

区分 学部名	卒業生数			進学者数			就職者数			就職先内訳				その他	
										県 内		県 外			
	女子	留学生		女子	留学生		女子	留学生		女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生
教育学部	126	76		15	10		104	62		61	40	43	22	7	4
医学部	165	100		8	6		49	46		23	21	26	25	108	48
工学部	369	61	1	182	28	1	180	32		46	6	134	26	7	1
農学部	284	140	3	92	47		160	81		43	24	117	57	32	12
地域資源創成学部	92	56		6	4		82	50		29	17	53	33	5	3
合 計	1,036	433	4	303	95	1	575	271		202	108	373	163	159	68

女子・留学生は内数

その他：臨床研修医、研究生、就職活動中、公務員（教員）試験等準備、海外留学、未就職者等を計上

就職者数は学校基本調査の定義に基づく。

産業別就職状況

(令和8年5月1日現在)

区分 学部名		農業、林業	漁業	鉱業、採石業、 砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・ 水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	専門・技術サービス業	学術研究、 飲食サービス業	宿泊業、 娯楽業	生活関連サービス業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス業	サービス業	公務	その他	合計
教育学部						1		1	1		1		1	1	1	88					8	1	104
	女子 留学生					1							1		1	53					5	1	62
医学部																		48			1		49
	女子 留学生																	46					46
工学部					37	60	3	38	3	2	4	1	3	1	2	1	2	1	2	4	18		180
	女子 留学生				5	12		7		1	2									5			32
農学部		3	1		5	21	2	3	3	10	7	1	25	3		5			4	5	62		160
	女子 留学生	1			2	10	2	2		4	3	1	9	2		2			2	4	37		81
地域資源創成学部					2	6	2	14	4	1	9	1	3	1	1	3	4	4	4	9	18		82
	女子 留学生				1	3	2	13			6	1	2	1	1		2	4	2	12			50
合計		3	1		44	88	7	56	11	13	21	3	32	6	4	97	54	9	18	107	1	575	
	女子 留学生	1			8	26	4	22		5	11	2	12	3	2	55	48	6	6	59	1	271	

女子・留学生は内数

2. 大 学 院

◇(修士・専門職学位)課程

(令和8年5月1日現在)

区分 研究科名	修了者数			進学者数			就職者数			就職先内訳				その他	
										県内		県外			
	女子	留学生		女子	留学生		女子	留学生		女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生
教育学研究科	16	6					16	6		14	5	2	1		
看護学研究科	8	7					7	7		4	4	3	3	1	
工学研究科	176	15	5	14	2	5	163	13		12	1	151	12		
農学研究科	69	23	3	4	1	1	63	22	1	8	3	55	19	2	1
地域資源創成学研究科	3	1					3	1		3	1				
医学獣医学総合研究科	7	5	1	1	1		5	3		1		4	3	1	1
合 計	279	57	9	19	4	6	257	52	1	42	14	215	38	4	2

◇(博士後期・一貫)課程

(令和8年5月1日現在)

区分 研究科名	修了者数			就職者数			就職先内訳				その他	
							県内		県外			
	女子	留学生		女子	留学生		女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生
医学獣医学総合研究科	25	8	4	24	7	4	17	4	7	3	1	1
農学工学総合研究科	15	6	5	15	6	5	5	2	10	4	3	
合 計	40	14	9	39	13	9	22	6	17	7	1	1

女子・留学生は内数

その他：研究生、就職活動中、公務員（教員）試験等準備、海外留学、未就職者等を計上

就職者数は学校基本調査の定義に基づく。

産業別就職状況

(令和8年5月1日現在)

区分		農業、林業	漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	技術サービス業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	娯楽業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス業	サービス業	公務	その他	合計
(修士・専門職学位) 課程	教育学研究科																	16						16
	女子留学生																	6						6
	看護学研究科																		7					7
	女子留学生																		7					7
	工学研究科			4	16	91	7	24			1	1	8					3		1	4	3		163
	女子留学生			2		6		1					2					2						13
	農学研究科					29		2	1	5	1		7					1		2	3	12		63
	女子留学生					12		1	1	2			2							1		3		22
						1																		1
	地域資源創成学研究科																	1			2			3
	女子留学生																			1				1
	医学獣医学総合研究科													3					2					5
	女子留学生												2						1					3
(博士後期・一貫) 課程	医学獣医学総合研究科	1																7	15			1		24
	女子留学生																	4	3					7
	農学工学総合研究科	1			4	1	1							3				5				1		4
	女子留学生	1			1		1							2				1						6
合計		2		4	20	121	8	26	1	5	2	1	21					33	24	3	9	16		296
女子留学生は内数		1		2	1	18	1	2	1	2			8					13	11	1	1	3		65
						2												7				1		10

女子・留学生は内数

奨学金利用者状況

(令和8年2月1日現在)

区 分		在学生数	日本学生支援機構				その他の 奨学団体	合計 (単位：人)	在学生に 対する割合
			一種	二種	給付	(うち併用者)			
学 部	教育学部	564	195	126	203	123	13	414	73.4
	医学部	880	121	131	181	79	203	557	63.3
	工学部	1,557	412	325	440	267	22	932	59.9
	農学部	1,223	253	189	332	163	23	634	51.8
	地域資源創成学部	391	110	71	127	68		240	61.4
	計	4,615	1,091	842	1,283	700	261	2,777	60.2
大 学 院	教育学研究科	37	28	2		2		28	75.7
	看護学研究科	23	4				4	17.4	
	工学研究科	330	183	17		17	5	188	57.0
	農学研究科	143	62	4		4	2	64	44.8
	地域資源創成学研究科	11	1					1	9.1
	医学系研究科（博士）								
	医学獣医学総合研究科（修士）	21	2	1		1	1	3	14.3
	医学獣医学総合研究科（博士）	133	2	1		1		2	1.5
	農学工学総合研究科	65	5				3	8	12.3
	計	763	287	25		25	11	298	39.1
合 計		5,378	1,378	867	1,283	725	272	3,075	57.2

※その他の奨学団体の人数は、大学に推薦依頼があり、採用された奨学生のみで学生が直接奨学団体に応募して採用された者は含まない。また、留学生は含まない。

国際交流

1. 外国人留学生数

(令和8年5月1日現在)

国・地域名		学部			大学院			研究生			特別聴講(研究)学生			科目等履修生			日研生 (※1) 国費	教研生 (※2) 国費	合計
		国費	政府 派遣	私費	国費	政府 派遣	私費	国費	政府 派遣	私費	国費	政府 派遣	私費	国費	政府 派遣	私費			
アジア	インド				4		1			1			1						7
	インドネシア				12		5										1		18
	韓国						2						5						7
	スリランカ						2												2
	タイ			5	2		5												12
	台湾												4						4
	中国			7			13			1			2						23
	パキスタン				2		1												3
	バングラデシュ				3		3												6
	ベトナム				1		1												2
	マレーシア		1																1
	ミャンマー				4		12												16
	モンゴル				1														1
中東 ヨーロッパ	アフガニスタン				1		2												3
	英国												1						1
	スロベニア												1						1
アフリカ 北米	エジプト						1												1
	米国									1									1
中南米	ニカラグア				1														1
	ブラジル																	1	1
計			1	12	31		48			3			14				1	1	111

※1 日本語・日本文化研修留学生 ※2 教員研修留学生

2. 海外派遣留学生

区分	派遣国・地域名		大学名等	令和7年度 派遣留学生	区分	派遣国・地域名		大学名等	令和7年度 派遣留学生	
交流協定校への留学等	アジア	韓国	順天大学校	10	協定校以外の大学・語学学校等への留学	アジア	韓国	語学留学	1	
			釜慶大学	11				研修留学	3	
		台湾	開南大学	2			ベトナム	調査実習	6	
			高雄医学大学	2				インターンシップ	8	
			嘉義大学	5				タイ	インターンシップ	4
			大葉大学	4				中国（香港）	調査実習	16
			成功大学医学院	4				台湾	調査実習	1
		インドネシア	ガジャマダ大学	1			シンガポール	インターンシップ	2	
			ブラウィジャヤ大学	2				研修留学	1	
			インドネシア大学	2			フィリピン	語学留学	1	
		タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学	22				オセアニア	オーストラリア	語学留学
			カセサート大学	1		研究留学	1			
	中国	中国	上海交通大学	4		ヨーロッパ	エストニア	卒業研究	1	
			温州医科大学	2				ドイツ	研修留学	1
			マレーシア	マレーシア科学大学		7	北米	米国	研修留学	1
	イタリア	カリアリ大学	1	語学留学		1				
	ヨーロッパ	チェコ	メンデル大学	13		中南米	コスタリカ	JICA 奨学金申請にかかる研究活動	1	
スロベニア		リュブリャナ大学	3	合 計				193		
北米	米国	ペンシルベニア州立インディアナ大学	46 (注1)(注2)(38)							

3. 外国人研究者受入状況

(令和7年度)

受入部局	教育学部	医学部	工学部	農学部	国際連携機構	産業動物防疫 リサーチセンター	その他	合計
国・地域名								
米国				2		1		3
中国		2	6	1				9
韓国	1		8	1				10
インド			3					3
インドネシア		2	1					3
エジプト				4				4
エチオピア				1				1
スロベニア		2						2
タイ		6	5	1		4		16
フランス			1					1
スロバキア		1						1
台湾		1						1
オーストラリア							1	1
モンゴル			1					1
合 計	1	14	25	10	0	5	1	56

4. 海外オフィス

宮崎大学は3カ国4カ所に海外拠点オフィスを設置し、本学と各大学の学術交流・学生交流を積極的に支援しています。

(令和8年5月1日現在)

オフィス名称	マランオフィス	ジョグジャカルタオフィス	ハノイオフィス	ヤンゴンオフィス
国	インドネシア		ベトナム	ミャンマー
所在地	ブラウィジャヤ大学	ガジャマダ大学	ベトナム国立農業大学	ヤンゴンコンピュータ大学
常駐職員	—	—	—	2人
設置時期	平成21年11月	平成26年11月	平成27年3月	平成26年12月

海外連携協定機関

■大学間交流協定（73校）

（令和8年5月1日現在）

国・地域名	大学等	学術交流協定 締結年月日	学生交流覚書 締結年月日	国・地域名	大学等	学術交流協定 締結年月日	学生交流覚書 締結年月日
イタリア	カリアリ大学	2010/9/27	2011/5/31	台湾	東呉大学	2013/11/14	2004/9/6
インド	インド工科大学カンプール校	2009/7/13		台湾	大葉大学	2015/3/28	2015/3/28
インド	VIT大学	2016/9/13	2016/9/13	台湾	国立屏東科技大学	2015/3/29	2015/3/29
インド	ニッテ大学	2016/9/15	2016/9/15	台湾	国立政治大学	2016/3/26	2016/3/26
インド	AMITY大学ラジャスタン校	2018/9/6	2018/9/6	台湾	国立嘉義大学	2017/1/16	2017/1/16
インドネシア	ボゴール農業大学	1992/8/31	1997/9/9	台湾	国立屏東大学	2017/7/20	2017/7/20
インドネシア	ハサヌディン大学	1995/2/6	2007/7/2	台湾	台北医学大学	2021/9/10	2021/9/10
インドネシア	プラウィジャヤ大学	2004/4/5	2005/9/26	タンザニア	セントオーガスティンタンザニア大学	2018/2/10	2018/2/10
インドネシア	ガジヤマダ大学	2011/10/14	2011/10/14	中国	南京農業大学	1990/11/28	2005/11/2
インドネシア	アイルランガ大学	2015/12/15	2015/12/15	中国	温州医科大学	2000/3/8	
インドネシア	リアウ大学	2016/11/17	2016/11/17	中国	青海大学	2005/8/29	2005/8/29
インドネシア	タドラコ大学	2018/2/9	2018/2/9	中国	西北農林科技大学	2010/11/10	2010/11/10
インドネシア	インドネシア大学	2023/1/19		中国	昆明医科大学	2019/9/26	2019/9/26
ウルグアイ	ウルグアイ共和国大学	2014/6/30		中国	川北医学院	2019/2/25	2019/2/25
エジプト	ベンハ大学	2014/12/25	2014/12/25	中国	青島農業大学	2019/12/20	2019/12/20
韓国	順天大学校	1989/11/21	1995/8/22	フィリピン	フィリピン大学	2016/9/21	2016/9/21
韓国	全北大学校	2009/12/15	2009/12/15	フィリピン	セントラルルソン大学	2017/9/11	2017/9/11
韓国	慶北大学校	2013/1/7	2013/1/7	ブラジル	半乾燥地農業大学	2018/8/2	2018/8/2
韓国	培材大学校	2016/2/25	2016/2/25	米国	エヴァーグリーン州立大学		1986/7/15
韓国	釜山外国語大学校	2016/3/10	2016/3/10	米国	カンザス州立大学	2012/8/2	2016/3/10
韓国	国立慶国大学校	2013/1/7	2018/1/18	米国	ペンシルベニア州立インディアナ大学	2015/4/9	2015/4/9
韓国	江陵原州大学校	2018/11/28	2018/11/28	ベトナム	ベトナム国立農業大学	2005/5/30	2005/5/30
韓国	京畿大学校	2019/1/7	2019/1/7	ベトナム	農業・地域開発省水資源教育局水環境研究所	2014/10/23	
韓国	慶星大学校	2019/5/16	2019/5/16	ベトナム	ノンラム大学	2016/2/2	2016/2/2
韓国	忠南大学校	2019/8/1	2019/8/1	ペルー	ガジェタノエレディア大学	2018/6/13	
韓国	徳成女子大学校	2019/12/10	2019/12/10	ペルー	サンマルコス国立大学	2018/8/7	2018/8/7
スリランカ	モラトゥワ大学	2019/12/24		ペルー	ラモリーナ国立農業大学	2019/12/11	
スロベニア	リュブリャナ大学	1987/9/30	2008/4/8	ペルー	ペルー国立衛生研究所	2023/7/12	
タイ	カセサート大学	2018/7/6	2018/7/6	ベルギー	リエージュ大学	2016/2/2	2016/2/2
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学	1995/12/11		マレーシア	マレーシア・プトラ大学	2013/7/1	2013/7/1
タイ	キング・モンクット工科大学トンブリ校	1999/7/21	2011/1/19	マレーシア	クアラルンプール科学技術大学	2016/3/29	2016/3/29
タイ	トンブリ・ラジャハット大学	2014/2/6	2014/2/6	マレーシア	ニライ大学	2019/5/28	2019/5/28
タイ	ラジャマンガラ大学スリウィジャヤ校	2017/6/20		マレーシア	マレーシア大学ケランタン校	2019/10/1	
タイ	農業・共同組合省畜産開発局	2019/4/23		ミャンマー	パテイン大学	2015/5/19	2015/5/19
タイ	キング・モンクット工科大学ラカバン校	2020/6/10	2020/6/10	モンゴル	モンゴル国立大学	2011/6/28	2011/6/28
タイ	ブラパー大学	2021/9/29		モンゴル	モンゴル国立医科学大学	2014/6/19	2014/6/19
台湾	開南大学	2013/3/15	2013/3/15				

大学について

教育の特色

研究の特色

学部・別科・大学院

部局・附属施設等

地域貢献

資料編

キャンパスマップ

■部局間交流協定（48 機関）

国・地域名	大学・部局等	学術交流協定 締結年月日	学生交流覚書 締結年月日	締結部局
インドネシア	ブラウウィジャヤ大学医学部	2016/11/2	2023/9/11	医学部
インドネシア	インドネシア大学医学部		2023/3/16	医学部
スロベニア	リュブリャナ大学医学部	2019/12/2	2019/12/2	医学部
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学医学部		2005/3/1	医学部
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学看護学部		2009/2/22	医学部
タイ	マヒドン大学熱帯医学部	2016/7/11	2016/7/11	医学部
台湾	国立成功大学医学院	2001/3/16	2014/11/16	医学部
台湾	高雄医学大学・医学部	2019/12/12		医学部
中国	延边大学医学院	2003/2/12		医学部
中国	上海交通大学医学院		2010/11/8	医学部
中国	温州医科大学		2015/6/8	医学部
ペルー	カジェタノエレディア大学医学部	2016/10/15	2016/10/15	医学部
ペルー	カジェタノエレディア大学附属熱帯病医学研究所	2016/10/27		医学部
インドネシア	ヌサチャングダナ大学工学部	2023/6/27	2023/6/27	工学部
オーストラリア	メルボルン大学理学部・工学部	2013/10/16		工学部
韓国	ソウル科学技術大学情報通信大学	2025/1/28		工学部
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学コンピューティング学部	2025/4/15	2025/4/15	工学部
中国	重慶理工大学工学系学院	2015/12/24	2015/12/24	工学部
チュニジア	カルタゴ大学国立農業学院	2017/9/13	2017/9/13	工学部
ポーランド	ヤン・コハノフスキ大学	1993/2/1		工学部
マレーシア	マレーシア科学大学	2023/4/3		工学部
インドネシア	ブラウウィジャヤ大学 農学部・農業技術学部	2024/3/19	2024/3/19	農学部
エジプト	ニューバレー大学 獣医学部	2023/3/13	2023/3/13	農学部
エジプト	ベンハ国立大学	2025/10/8	2025/10/8	農学部
韓国	釜慶大学校水産科学部	2012/6/7	2012/6/7	農学部
韓国	ソウル市立大学校 自然科学大学	2018/9/20		農学部
タイ	マヒドン大学熱帯医学部		2016/9/22	農学部
タイ	マヒドン大学獣医学部		2016/9/22	農学部
チェコ	メンデル大学林業・木材学部	2016/12/19	2016/12/19	農学部
マレーシア	マレーシアアトレンガヌ大学 水産養殖科学学部	2025/12/21		農学部
インドネシア	ウダヤナ大学獣医学部	2021/5/24	2021/5/24	農学部・CADIC
タイ	マヒドン大学熱帯医学部	2016/9/22		農学部・CADIC
タイ	マヒドン大学獣医学部	2016/9/22		農学部・CADIC
タイ	コンケン大学獣医学部	2016/11/1		農学部・CADIC
タイ	チェンマイ大学獣医学部	2017/4/10	2022/9/29	農学部・CADIC
インドネシア	ヌサチャングダナ大学医学・獣医学部	2022/10/19	2022/10/19	医学部・農学部・CADIC
イタリア	テラモ大学獣医学部	2022/3/1		CADIC
インドネシア	ボゴール農業大学獣医学部	2018/11/7		CADIC
インドネシア	インドネシア海洋水産省魚質検疫・検査庁デンパサール支局	2021/11/12		CADIC
インドネシア	インドネシア国家研究革新庁獣医学研究センター	2025/9/25		CADIC
カナダ	カナダ食品検査局・国立動物疾病センター・レスブリッジ研究所	2014/11/14		CADIC
韓国	ソウル大学校獣医校附属産業動物臨床研究・教育センター	2016/3/17		CADIC
韓国	全北大学校家禽疾病コントロールセンター	2017/6/16		CADIC
タイ	チュラロンコン大学獣医学部	2018/1/17		CADIC
中国	青海省畜牧兽医科学院	2023/10/10		CADIC
ブラジル	サンパウロ州・サンパウロアグリビジネス科学技術庁・生物研究所	2015/9/28		CADIC
ルワンダ	ルワンダ大学	2022/5/13		CADIC
台湾	国立中興大学文学院	2024/7/12		多言語多文化教育研究センター

国内連携協定機関

(令和 8 年 5 月 1 日現在)

	協 定 先	協定月日	目 的
1	株式会社宮崎銀行	平成17年 2月24日	学術・文化の振興及び活力ある経済社会の形成並びに地域経済の活性化を図ることを目的とする。
2	株式会社宮崎太陽銀行	平成17年 2月24日	学術・文化の振興及び活力ある経済社会の形成並びに地域経済の活性化を図ることを目的とする。
3	社団法人宮崎県工業会	平成18年 6月 8日	相互の資質の向上及び大学と県内企業との連携強化を図り、地域社会の発展に貢献することを目的とする。
4	宮崎県経済農業協同組合連合会 (J A 宮崎経済連)	平成19年 5月28日	宮崎県における農業の発展と相互の資質の向上に寄与することを目的とする。
5	宮崎県	平成19年 6月26日	宮崎の特性を生かし、豊かで活力ある地域社会の形成と発展に寄与することを目的とする。
6	学校法人高梁学園九州保健福祉大学 (現：学校法人順正学園九州医療科学大学)	平成21年 9月 9日	相互に緊密かつ組織的な連携・協力体制を築き、両大学の教育・研究の推進を図ることにより、それらを通じて地域や国際社会への貢献に寄与することを目的とする。
7	梅田学園グループ	平成22年 4月13日	交通安全運動推進並びに宮崎大学の学生サークル活動支援のため、それぞれが保有する機能やサービスの提供を目的とする。
8	社団法人宮崎県商工会議所連合会	平成22年 6月 8日	学術・文化の振興、および大学と県内企業との連携強化、活力ある地域社会の形成と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
9	宮崎県商工会連合会	平成22年 6月 8日	学術・文化の振興、および大学と県内企業との連携強化、活力ある地域社会の形成と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
10	学校法人宮崎総合学院	平成22年10月 7日	各種資格取得並びに就職試験対策への協力のため、それぞれが保有する機能やサービスの提供を目的とする。
11	フェニックスリゾート株式会社	平成23年 2月15日	それぞれの資質の向上と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
12	宮崎県ホテル旅館生活衛生同業組合	平成23年 2月18日	スポーツメディアカル構想の研究に関して連携協力し、宮崎県・宮崎市と連携を図りつつ、「スポーツランドみやざき」構想の新しい付加価値創造と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
13	社団法人宮崎県商工会議所連合会、宮崎県農業協同組合中央会、宮崎県経済農業協同組合連合会、宮崎県漁業協同組合連合会、宮崎県森林組合連合会、宮崎県商工会連合会、宮崎県※宮崎県と本学はアドバイザーとして参加	平成23年 3月31日	農工商連携が推進される中、宮崎県の農業、漁業、林業、工業、商業等の各産業間の一層の連携強化について情報交換や研究を行う場を設けるとともに、それぞれの経営資源を有効に活用して行う事業等の実施について合意した場合は、積極・果敢にその実行に取り組むこととし、もって活力ある地域社会の形成と経済の活性化を図るものとする。
14	宮崎市	平成23年 4月 5日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
15	日南市	平成24年 4月12日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
16	日向市	平成24年 7月 6日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
17	串間市	平成25年 5月10日 平成27年 8月17日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。 津波が発生し、又は発生する恐れがある場合において、地域住民等が緊急に避難しなければならないときに、宮崎大学が所有する施設を地域住民等の一時避難場所として使用することを目的とする。
18	一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技会 組織委員会	平成26年 6月23日	それぞれの資源を活用し、オリンピック教育の推進や大会機運の醸成等、大会に向けた取組を進めるため、相互に連携・協力体制を構築することを目的とする。
19	独立行政法人国際協力機構 (JICA)	平成26年 7月 9日	開発途上国地域への国際協力事業の質の向上、国際貢献及び大学の教育・研究並びに国内の国際化の推進に寄与することを目的とする。
20	全国「道の駅」連絡会	平成27年 2月13日	「道の駅」における就労体験を通じて、学生が実践的に学習するとともに、活動の舞台となる「道の駅」の活性化の好循環に資することを目的とする。
21	学校法人宮崎学園宮崎国際大学 学校法人宮崎学園短期大学	平成27年 8月11日	双方がこれまでお互いに培ってきた実績を基盤にして、相互に緊密かつ組織的な連携・協力体制を築き、教育・研究の推進を図ることにより、それらを通して地域や国際社会への貢献に寄与することを目的とする。
22	綾町	平成27年 9月15日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
23	株式会社日本政策金融公庫宮崎支店 株式会社日本政策金融公庫延岡支店	平成27年10月29日	研究成果等を地域社会へ還元すること及び緊密な情報交換を行うことにより地域の産学連携を推進し、もって中小企業及び地域社会の発展に貢献することを目的とする。
24	西都市	平成28年 8月29日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
25	川南町	平成28年10月12日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
26	日機装株式会社	平成28年11月28日	新技術の共同開発研究によるイノベーションの創出ならびに共同開発研究を通じた人材育成などを目的とする。
27	世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会 宮崎県立高千穂高等学校	平成29年 3月 5日	世界農業遺産としての認定を受けた同地域の若い世代を対象とした人材育成をはかりながら、同地域が持つ資源の再評価・体系化などを学術的な視点で明らかにし、地域活性化につなげていくことを目的とする。
28	公益財団法人かずさ DNA 研究所	平成29年 3月 8日	ゲノム研究を中心とした生命科学・技術に関する研究、生命科学・技術による医療・健康づくり、環境および食糧問題の解決に寄与することを目的とする。
29	門川町	平成29年 6月 5日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
30	宮崎県立図書館	平成30年 4月 1日	知の共有・創造の拠点として、学術、教育及び文化の継承・発展並びに地域貢献に寄与することを目的とする。
31	都城市	平成30年 7月23日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
32	都農町	平成30年 8月27日	都農町が新しく設置する「まちづくり団体」を核として幅広い分野で相互に協力し、都農町の地域課題を解決することを目的とする。
33	公立大学法人宮崎県立看護大学、公立大学法人宮崎公立大学、南九州大学、宮崎国際大学、九州保健福祉大学、南九州短期大学、宮崎学園短期大学、独立行政法人国立高等専門学校機構都城工業高等専門学校、放送大学宮崎学習センター、宮崎県立農業大学校、独立行政法人航空大学校	令和 元年 7月 1日	宮崎県内で大規模災害等が発生し、又は発生するおそれがあると認められる場合に、締結機関が相互に連携・協力することにより、被災した締結機関に対する迅速かつ円滑な救援・復旧支援を推進し、もって各締結機関の教育研究活動等の継続あるいは早期復旧させることを目的とする。
34	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、宮崎県	令和 元年11月13日	最先端のスマート農業技術を活用した農畜産分野及び食品産業分野における研究開発の強化及び研究成果の利活用並びに人材育成を通じ、地域産業の振興及び地域社会の持続的な発展に寄与することを目的とする。
35	東京慈恵会医科大学	令和 2年 3月 3日	包括的な連携の下、相互の更なる発展を目指し、教育、研究、地域貢献等にわたって広く協力し、社会にその成果を還元し、医療人の育成に寄与することを目的とする。
36	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	令和 3年 6月 7日	それぞれの資源を有効に活用した協働による活動を通じ、SDGs 達成に資する取組みを推進し、地方創生の実現に資することを目的とする。
37	国立大学法人大分大学	令和 3年11月 1日	包括的な連携の下、双方に共通する理念の実現と社会的使命を果たすため、教育、研究、産学連携及び国際交流等にわたって広く協力し、特に教育研究の推進に寄与することを目的とする。
38	株式会社デンサン	令和 4年10月26日	数値・データサイエンス・AI 教育における産学共同教育体制を構築し、デジタル人材を育成することを目的とする。(株式会社デンサンと宮崎大学及び・学生支援機構による協定)
39	宮崎県商工会議所、株式会社宮崎銀行、旭化成株式会社、イー・アンド・エム株式会社、株式会社デンサン、宮崎県	令和 5年 5月12日	宮崎県のデジタル化の充実・発展を図り、宮崎県の持続的な発展及び地域創生に貢献することを目的とする。
40	宮崎県立宮崎大宮高等学校	令和 5年 7月18日	連携事業による協働を通して教育及び研究の充実・発展を図るとともに、ゆたかな世界を協創する人材を育成することを目的とする。
41	国立大学法人島根大学	令和 5年 9月 1日	包括的な連携のもと、両者の強みや特色を活かして教育、研究、地域貢献等の分野において広く連携し教育、研究の質の向上を図り、もって社会の発展及び人材育成に寄与することを目的とする。
42	株式会社サカイ引越センター	令和 6年 3月18日	それぞれの資源を有効に活用した協働による活動を通じ、SDGs 達成に資する取組みを推進し、地方創生の実現に資することを目的とする。
43	新富町	令和 6年 5月 7日	包括的な連携の下、それぞれの資源や機能の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の活性化及び町民サービスの向上に寄与することを目的とする。
44	九州電力株式会社宮崎支店	令和 6年 7月18日	宮崎大学が持つ教育研究資源と九州電力株式会社宮崎支店の地域に密着した事業活動との産学連携を通じて、地域社会の持続的な発展に貢献することを目的とする。
45	宮崎県立宮崎南高等学校	令和 6年 7月23日	宮崎大学と宮崎南高校が連携して取り組んでいた「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を「産学官連携による地域循環教育プログラム」として充実・発展させ、地域に根差した次世代のリーダーを育成することを目的とする。
46	西米良村	令和 7年 1月24日	包括的な連携の下、それぞれの資源や機能の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
47	日之影町、イー・アンド・エム株式会社、株式会社共立ソリューションズ	令和 7年 5月30日	日之影町の主導のもと、地方創生に向けた連携と協力関係を築き、地域の課題に適切に対応し、協働による事業を推進することにより、活力ある地域社会の形成・発展及び町民サービスの向上に寄与することを目的とする。
48	株式会社宮崎放送	令和 7年 7月 1日	宮崎大学が持つ教育研究資源と株式会社宮崎放送の地域に密着したメディア事業活動との産学連携を通じて、地域社会の持続的な発展に貢献することを目的とする。
49	国立大学法人長崎大学、国立大学法人鹿児島大学	令和 7年 7月 9日	3者が相互に連携・協力し、それぞれが有する人的・知的・物的資源を活用することにより、人類と地球が抱える多様で相互に関連する問題群に取り組む超領域型融合研究を推進し、科学的知見に基づく解決策を見出し、その社会実装を進める総合知人材を育て、プラネタリーヘルスの実現を牽引することを目的とする。
50	国立大学法人鹿児島大学	令和 7年 8月 7日	包括的な連携のもと、両者の強みや特色を活かして教育、研究、地域貢献等の分野において広く連携し教育、研究の質の向上を図り、もって社会の発展及び人材育成に寄与することを目的とする。
51	KDDI 株式会社	令和 7年 9月22日	宮崎大学及び KDDI 株式会社が協力し、地域課題の解決に向けたアプローチモデル及びその実績を創出することを目的とする。また、地域課題の解決に伴い、双方のプレゼンス向上を図ることを目的とする。
52	株式会社テレビ宮崎	令和 7年10月 6日	それぞれの資源を有効に活用した協働による活動を通じ、地域課題の解決と持続可能な地域社会の実現に向けた連携を推進し、宮崎県の恒久的な発展に資することを目的とする。
53	一般社団法人宮崎県獣医師会	令和 7年12月23日	SFTS の診断、治療、予防、啓発活動、研究等を推進することにより、県民及び動物の健康保持と安全確保を図ることを目的とする。

※大学間・機関間レベルの協定のみ記載。

大学について

教育の特色

研究の特色

学部・別科・大学院

部局・附属施設等

地域貢献

資料編

キャンパスマップ

令和7年度公開講座実施状況

● 本学による公開講座

	講座等の名称	参加人数	実施回数	実施期間	総開催 時間数
1	“和合の郷” 土呂久に学ぶ環境学 5 ～土呂久エコツーリズムⅡ 土呂久の魅力を満喫しよう～	5名	1	5/10	5.5
2	林業基礎体験学習講座	4名	3	6/7～6/22	15
3	世界の野球事情	138名	5	5/14～6/11	7.5
4	今さら聞けないデザイン思考入門 ～ものづくり・企画作成の考え方を捉える～	13名	1	5/24	2
5	楽しく学ぶ百人一首 ～和文文化世界への招待～	107名	5	5/24～9/27	7.5
6	源氏物語 ～東屋巻（後半）を読む～	22名	2	6/7～6/8	6
7	先祖調査手法講座（入門編） ～受け継がれた命のリレー（ルーツ探索）の具体的手法～	102名	2	6/8～7/6	3
8	まちなか観光学 ～まちを観光化するための思考法～	26名	1	6/21	2
9	牧水をよむ ～第8歌集『砂丘』&生誕140年記念前夜祭鼎談～	34名	2	6/28～8/23	5
10	高校生対象 就職対策講座 ～自分にあった仕事を見つけてみませんか？～ ※開催中止		3	6/28～8/23	4.5
11	若山牧水生誕140年記念前夜祭鼎談 「牧水が愛され続ける理由」	16名	1	8/23	2
12	海を知る 225 ～海の恵みや豊かさ、生き物の多様性を知る～	62名	4	8/23～9/13	6.5
13	源氏物語 ～浮舟巻（前半）を読む～	18名	2	8/30～8/31	各6.0
14	木花フィールドで収穫体験 ～ポップコーンを栽培しよう！～	62名	2	5/6～8/17	各3.0
15	親子で学ぶ半導体 ～半導体ってどこに使用されているの？～	43名	1	7/19～7/20	各2.5
16	親子で合宿、海の学校 225 ～親子で磯場に出よう！海の生き物に触れ、学ぼう！～	18名	1	7/26～7/27	18
17	親子でソーラーカーを作ろう	56名	1	8/10～8/12	2.5
18	親子で太陽電池を学ぶ ～太陽電池は、どうすればたくさん発電する？～	21名	1	8/10～8/12	2.5
19	医療的ケア児のケア ～入院から在宅まで、こどもと家族の生活を支えるために～	8名	1	7/12	3
20	宮崎大学医学部公開講座 「医療における最近の話題」	29名	1	8/3	2
21	がんを知ることから始めよう ～看護師とがんについて語ろう～	21名	1	8/9	1.5
22	見て、触って、学ぼう！人工呼吸器装着患者のケア ～初心者にもわかる人工呼吸管理（成人）のポイント～	19名	1	9/6	4
23	NVC（非暴力コミュニケーション）を教育現場に活用する ～パワーオーバーからパワーウィズへ～	7名	2	10/5～10/26	13
24	まちづくりの経済学 ～地域経済分析から考える～	15名	1	10/11	2
25	楽しく学ぶ百人一首 ～和文文化世界への招待～	99名	6	10/11～3/21	12
26	物語から学ぶ開花心理学 ～心の「アクセルとブレーキ」を使いこなすには！～	36名	4	10/11～11/15	8
27	世界の野球事情（高校野球特別編）	158名	5	11/5～12/2	7.5
28	源氏物語 ～浮舟巻（後半）を読む～	20名	2	11/15～11/16	6
29	林業基礎体験学習	52名	5	11/16～3/1	22.5
30	ダイズで拓く明るい未来 ～ダイズの活用で都県の産業振興を目指す～	54名	3	11/16～12/14	7.5
31	牧水をよむ ～第9歌集『朝の歌』～	34名	2	11/29～2/21	6
32	「つくる」って、学べるんだ。 ～参加型の場を、自分でデザインする連続講座～	15名	3	1/10～2/21	10
33	会社経営者、人事担当者向け講座「若者の採用力・定着力を高めるヒント」 ～入社後3年の壁を乗り越えるには？～	17名	1	1/8～1/15	1.5
34	今年もやります！魚をさばく 225 ～魚のさばき方を学び、美味しく味わう！～	20名	1	2/14	3
35	海外野球から学ぶ人材育成の在り方 ～スポーツマンシップの本質に迫る～	17名	1	2/22	2.5
36	アーティスト視点の持ち方 ～心の中にアーティストの自分を持つ～	8名	1	2/28	各2
37	源氏物語 ～蜻蛉巻を読む～	18名	2	3/21～3/22	6
38	AI使った多言語講座 - 入門編 - ～もう外国語は怖くない～	5名	1	3/28	1.5
39	森林体験講座「森の学校へいこう！」 ～森林から得られるもの～	32名	1	11/22～11/23	各10
40	木花フィールドで収穫体験 ～親子でプロックリーを収穫しよう！～	48名	1	12/20	1.5
41	春の森林教室 ～植林体験と森の恵み～	18名	1	3/14	3
42	牧場体験してみよう	10名	1	3/27	3
43	親子で学ぶ人工知能 ～AIってなに？～	28名	1	3/28～3/29	2.5
44	「耳の目」講演会&相談会～よりよい聴こえの為に～	140名	1	2/28	2.5
45	こどもの健やかな成長と生活のために	6名	1	11/8	2.5
		1,681名	95		256

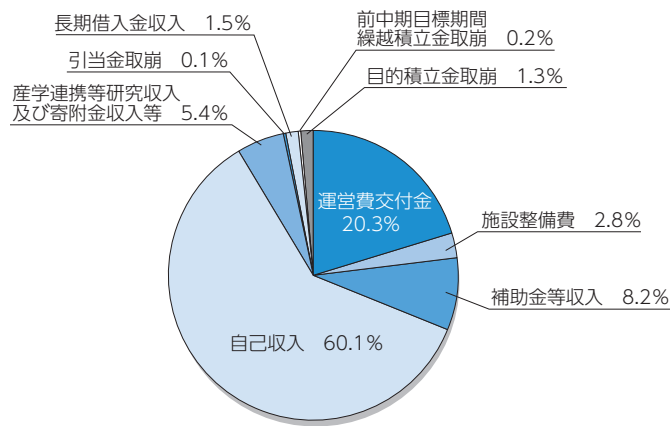
令和7年度経理状況

●決算額

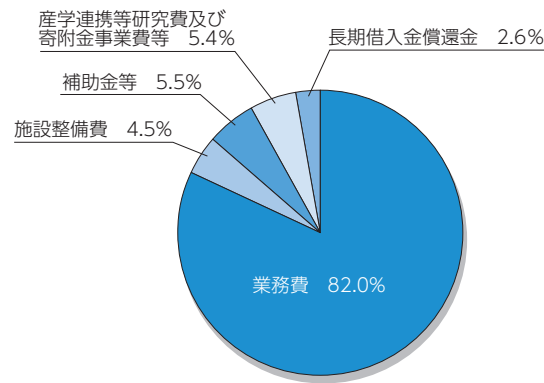
単位：円

収 入			支 出		
運営費交付金		9,597,827,271	業務費	教育研究経費	10,902,810,691
	大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	14,000,000		診療経費	26,554,430,130
施設整備費	施設整備費補助金	1,311,367,621	施設整備費		2,042,516,621
	厚生労働省交付金	0			
補助金等収入		3,864,934,631	補助金等		2,518,341,037
自己収入	授業料、入学料及び検定料収入	2,502,923,130	産学連携等研究費 及び寄附金事業費等	寄附金事業経費	818,146,168
	附属病院収入	24,859,150,601		産学連携等研究費	1,656,606,635
	財産処分収入	0	長期借入金償還金		1,168,372,038
	雑収入（指定管理料収入含む）	1,071,087,002			
産学連携等研究収入 及び寄附金収入等	寄附金収入	883,475,941			
	産学連携等研究収入	1,670,607,574			
引当金取崩		65,936,118			
長期借入金収入		717,149,000			
前中期目標期間繰越積立金取崩		93,290,873			
目的積立金取崩		613,519,475			
減価償却引当特定資産取崩		7,513,000			
合 計		47,272,782,237	合 計		45,661,223,320

■収入



■支出



●科学研究費助成事業採択状況

(令和7年度)

研究種目	採択件数	金額（千円）
学術変革領域研究（A）	1	12,870
基盤研究（A）	4	36,140
基盤研究（B）	31	145,080
基盤研究（C）	164	228,150
挑戦的研究（開拓）	3	20,280
挑戦的研究（萌芽）	10	24,570
若手研究	55	83,460
研究活動スタート支援	5	6,760
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））	3	13,130
奨励研究	3	1,420
研究成果公開促進費	2	1,750
特別研究員奨励費	3	8,270
独立基盤形成支援	2	3,640
計	286	585,520

大学について

教育の特色

研究の特色

学部・別科・大学院

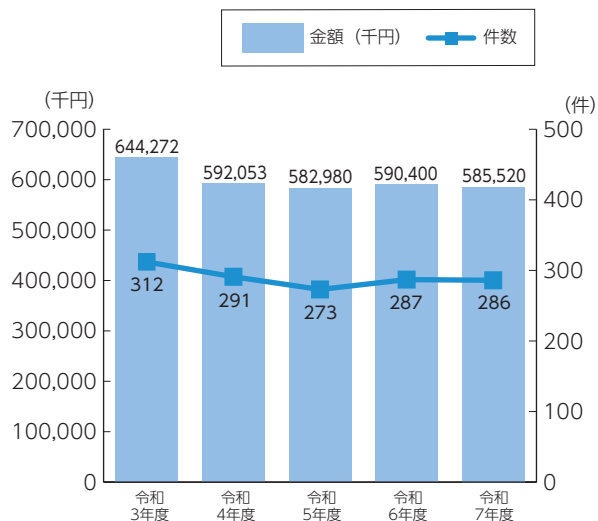
部局・附属施設等

地域貢献

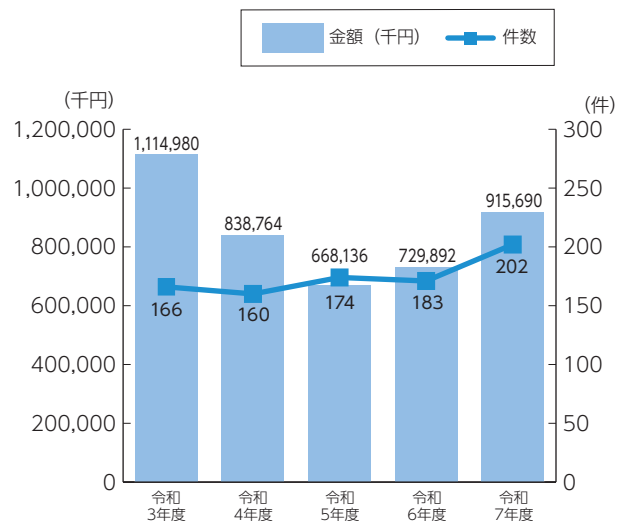
資料編

キャンパスマップ

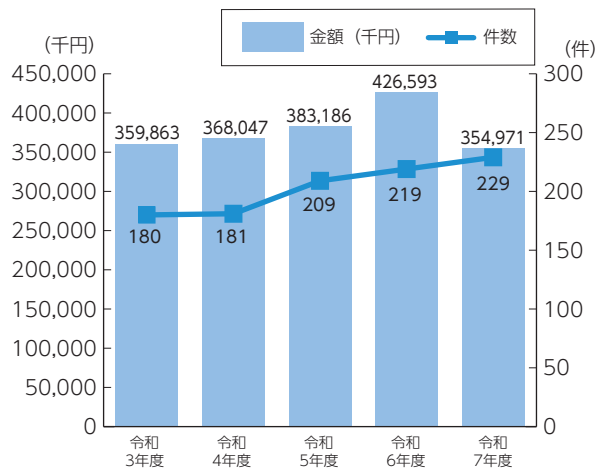
●科学研究費助成事業受入状況



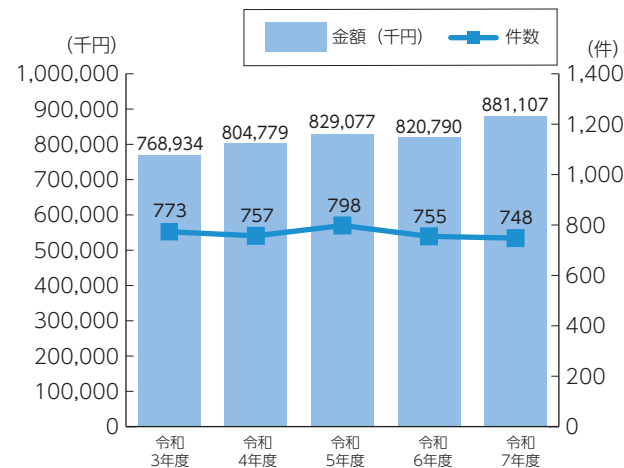
●受託研究受入状況



●共同研究受入状況



●寄附金受入状況



●その他の競争的資金等

(令和7年度)

経 費	件 数	金 額 (千円)
科学技術人材育成費補助金 「卓越研究員事業」	1	4,000
○研究開発施設共用等促進費補助金 (ライフサイエンス研究の振興 (ナショナルバイオリソースプロジェクト)) ・マメ科植物研究を支えるミヤコグサ・ダイズリソースの高度化と利用拡大 ・次世代型メダカバイオリソース整備とその拠点形成 (メダカゲノムリソースの保存) ○次世代ヘルステック・スタートアップ育成支援事業 (ヘルステック研究開発) ・変形性膝関節症による膝の痛みを解決するリング型インプラントの研究開発	3	56,941

※代表者受入分のみ掲載し、金額は、本学内定額を記載 (間接経費を含む)

学生関係施設

●大学会館

建物名称	階 別	室 名	用途等
大学会館	地下 1		
	1	食堂・ホール・インフォメーションコーナー	食堂（830 席）・ホール
		ベーカリーカフェ	喫茶・軽食（20 席）
	2	国際連携センター（国際連携課）	
	3	共創人材育成部門 教育企画部門 総合知教育企画部門	

●創立 330 記念交流会館

建物名称	室 名	用途等
創立330記念交流会館	コンベンションホール	最大 200 人収容
	コンベンションルーム	最大 30 人収容
	売店	書籍、文具、その他
	学生なんでも相談室	学生の悩み等の相談
	キャリアアドバイザー室	就職に向けた資格、進路相談

●学生寄宿舍

名称	区分	構 造	入居定員（名）
男子寄宿舍		鉄筋 5 階建	100
女子寄宿舍		鉄筋 5 階建	100
国際交流宿舍		鉄骨鉄筋 8 階建	167
国際交流宿舍Ⅱ		鉄筋 4 階建	8
国際交流宿舍Ⅲ（木花ドミトリー）		鉄筋 4 階建	31
農学部住吉寄宿舍		鉄筋 2 階建	5

国際交流宿舍Ⅱの入居定員の単位は室

●体育施設・課外活動施設

◇木花キャンパス

施設名	種 目
体育館（武道場）	体操・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ハンドボール・卓球等 柔道・剣道・空手道・合気道・少林寺拳法等
陸上競技場（400m）	陸上競技
テニスコート（ハード・オムニ）	テニス・ソフトテニス
運動場	硬式野球・ソフトボール・ラグビー・サッカー・アメリカンフットボール等
馬場（厩舎）	馬術
弓道場	弓道
課外活動共用施設	体育系・文化系サークル共用室
	文化系（音楽）サークル共用室
	グラウンド・サークル棟

◇清武キャンパス

施設名	種 目
テニスコート（ハード・クレイ）	テニス・ソフトテニス
体育館	バレーボール・卓球・バスケットボール・バドミントン等
プール（50m）	水泳
武道場	柔道・剣道・空手
弓道場	弓道
清花グラウンド	野球・サッカー・ラグビー

土地・建物

(令和8年5月1日現在)

区 分	土地 (㎡)	建 物 (㎡)		備 考
		建面積	延面積	
[木花地区]	839,592	44,854	118,556	
事務局		1,332	3,608	※安全衛生保健センターを含む
創立 330 記念交流会館		1,673	1,670	
中央機械棟		430	430	
門衛所		64	64	
大学会館		1,525	3,458	
体育館・器具庫		3,197	3,624	
教育学部・地域資源創成学部		6,706	22,712	※附属教育協働開発センターを含む
工学部		7,041	22,328	
農学部		5,824	25,213	
農学部附属次世代農学教育研究センター 木花フィールド(農場)		2,258	2,615	
農学部附属動物病院		1,181	1,867	
産業動物教育研究センター		541	1,125	
農学部附属農業博物館		417	766	
附属図書館		1,829	4,977	
研究・産学地域連携推進機構等		1,563	3,127	
創造プロジェクト棟		546	898	※イスラム文化研究交流棟を含む
フロンティア科学総合研究センター等		1,054	2,595	
情報基盤センター		662	1,254	
総合研究棟		2,455	3,972	※技術家庭棟を含む
寄宿舎		931	3,691	
国際交流宿舎		978	5,211	
課外活動施設		1,580	2,306	
実験廃水処理施設		226	173	
地域デザイン棟		354	238	
一般管理施設（保育施設）		237	384	
農学部水田		250	250	
[清武地区]	224,316	39,174	124,201	
医学部事務局・フロンティア科学総合研究センター等		12,153	36,416	
医学部附属病院		24,268	77,296	
附属図書館医学分館		854	1,908	
総合教育研究棟		1,899	8,581	
[船塚・花殿地区]	61,777	8,709	15,616	
教育学部附属幼稚園	└─ 21,797	1,058	913	
木犀会館	└─	132	132	
教育学部附属小学校	└─ 39,980	3,613	7,162	
教育学部附属中学校	└─	3,906	7,409	
[農学部附属次世代農学教育研究センター]	6,694,031	10,466	11,856	
住吉フィールド（牧場）	502,040	9,074	9,754	
田野フィールド（演習林）	6,185,887	759	1,033	
延岡フィールド（水産実験所）	6,104	633	1,069	
職員宿舎	30,526	4,034	16,453	
木原新職員宿舎	10,706	1,464	7,330	
木原職員宿舎	11,467	1,349	4,239	
西新町職員宿舎	8,353	1,221	4,884	
計	7,850,242	107,237	286,682	

施設所在地

●木花キャンパス

0985-58-7111 (番号案内)

名称	電話番号	所在地
事務局	0985(58)2854	〒 889-2192 宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地
教育学部・教育学研究科	0985(58)2889	
附属教育協働開発センター	0985(58)5287	
工学部・工学研究科	0985(58)2871	
農学部・農学研究科	0985(58)2875	
附属次世代農学教育研究センター		
木花フィールド (農場)	0985(58)7154	
附属動物病院	0985(58)7286	
附属農業博物館	0985(58)2898	
地域資源創成学部・地域資源創成学研究科	0985(58)7848	
附属地域資源情報活用センター		
農学工学総合研究科	0985(58)7870	
先端研究推進本部		
フロンティア科学総合研究センター	0985(58)2882	
産業動物防疫リサーチセンター	0985(58)7674	
GX 研究センター	0985(58)2873	
学び・学生支援機構	0985(58)7584	
研究・産学地域連携推進機構	0985(58)4017	
国際連携機構	0985(58)7104	
附属図書館	0985(58)7147	
IR センター	0985(58)7967	
安全衛生保健センター	0985(58)3423	
障がい学生支援室	0985(58)7668	
情報基盤センター	0985(58)2867	
清花アテナ DEI 推進室	0985(58)7508	
創立 330 記念交流会館	0985(58)7427	
地域デザイン棟	0985(58)7885	
男子寄宿舍		
女子寄宿舍		
国際交流宿舎	0985(58)7142	

●清武キャンパス

0985-85-1510 (番号案内)

名称	電話番号	所在地
医学部・看護学研究科	0985(85)1510	〒 889-1692 宮崎市清武町木原 5200 番地
附属病院	0985(85)1510	
医学獣医学総合研究科	0985(85)9126	
附属図書館医学分館	0985(85)9198	
フロンティア科学総合研究センター	0985(58)2882	
安全衛生保健センター分室	0985(85)2392	
清花アテナ DEI 推進室 (清武)	0985(85)1252	

●教育学部

名称	電話番号	所在地
附属幼稚園	0985(24)6707	〒 880-0031 宮崎市船塚 1 丁目 1 番地
附属小学校	0985(24)6706	〒 880-0026 宮崎市花殿町 7 番 49 号
附属中学校	0985(25)1122	〒 880-0026 宮崎市花殿町 7 番 67 号

●農学部

名称	電話番号	所在地
別科 (畜産別科)	0985(58)7152	〒 880-0121 宮崎市大字島之内 10100-1
附属次世代農学教育研究センター		
住吉フィールド (牧場)	0985(39)1034	〒 880-0121 宮崎市大字島之内 10100-1
田野フィールド (演習林) (田野地区)	0985(86)0036	〒 889-1702 宮崎市田野町乙 11300
(大納地区)		〒 888-0221 串間市大字大納字平原 1885
(崎田地区)		〒 888-0009 串間市大字崎田字名切 4270
延岡フィールド (水産実験所)	0982(37)0327	〒 889-0517 延岡市赤水町 376-6



Kibana Campus

I 木花キャンパス

〒889-2192
宮崎県宮崎市学園木花台西
1丁目1番地



農学部

- ① 実験研究棟(北)
- ② 講義棟
- ③ 実験研究棟(南)
- ④ 実験研究棟(獣医)
- ⑤ 附属動物病院
- ⑥ 附属農業博物館
- ⑦ 標本植物温室
- ⑧ 附属次世代農学教育研究センター
木花フィールド(農場)

教育学部

- ⑨ 講義棟
- ⑩ 実験研究棟
- ⑪ 美術棟
- ⑫ 技術・家庭棟
- ⑬ 音楽棟
- ⑭ 附属教育協働開発センター

地域資源創成学部

- ⑮ 講義棟
- ⑯ 実験研究棟

工学部

- ⑰ 実験研究棟(A棟)
- ⑱ 講義棟(B棟)
- ⑲ 実験研究棟(C棟)
- ⑳ 機械実習工場
- ㉑ 機械工学実験実習棟
- ㉒ 高電圧実験棟
- ㉓ 土木工学実験実習棟
- ㉔ 実験研究棟(E棟)
- ㉕ 電気機器実験棟

- ㉖ 福利施設棟
(国際連携センター、学生食堂、
インフォメーションコーナー)
- ㉗ 附属図書館(本館)
- ㉘ 創立330記念交流会館
- ㉙ 地域デザイン棟
- ㉚ 事務局棟
- ㉛ 安全衛生保健センター、
障がい学生支援室
- ㉜ 情報基盤センター
- ㉝ フロンティア科学総合研究センター
(RI分野木花分室)
- ㉞ 研究・産学地域連携推進施設
(研究・産学地域連携推進機構)
- ㉟ 創造プロジェクト棟
- ㊱ イスラム文化研究交流棟
- ㊲ 研究基盤支援施設
(研究・産学地域連携推進機構)
- ㊳ フロンティア科学総合研究センター
(木花分室総合棟)
- ㊴ 総合研究棟
- ㊵ 産業動物教育研究センター
- ㊶ 国際交流宿舍
- ㊷ 女子寄宿舍
- ㊸ 男子寄宿舍
- ㊹ 木花ドミトリー
- ㊺ ゆにのもり保育園
- ㊻ シェアカー(2台)
- ㊼ 電気自動車充電スペース

太陽光発電システム・ 太陽熱給湯システム

- ☀ 工学部実験研究棟屋上
- ☀ 研究基盤支援施設
(研究・産学地域連携推進機構)壁面
- ☀ 附属図書館屋上
- ☀ 国際交流宿舍屋上
- ☀ NSCエネルギースクエア
(集光型太陽光発電システム)
- ☀ 教育学部技術・家庭棟屋上
- ☀ 教育学部実験研究棟屋上
- ☀ 農学部実験研究棟(北)屋上
- ☀ 農学部講義棟屋上
- ☀ ソーラーカーポート

自然科学野外観察教材 開発プロジェクト

- 🌿 木花キャンパスの地質の全体像
- 🌿 下末吉海進期以降の段丘堆積物
- 🌿 宮崎層群の砂岩泥岩互層
- 🌿 ナンバンギセル(ハマウツボ科)
- 🌿 照葉樹林

清武キャンパス

〒889-1692
宮崎県宮崎市清武町木原5200番地

一般駐車場	身障者用駐車場	身障者駐車場 (屋根あり)	200V EV充電設備
売店	食堂・カフェ	カフェ	ATM
公衆電話	タクシー乗降場	教職員・学生駐車場	バス停 (宮崎大学)

医学部

- 講義実習棟
- 総合教育研究棟
- 福利施設
- 基礎臨床研究棟
- 附属図書館 (医学分館)
- 附属病院
- 管理棟
- フロンティア科学総合研究センター (RI分野清武分室)
- フロンティア科学総合研究センター (生物資源分野清武分室)
- 外来診療棟
- ヘリポート (2カ所)
- 看護師宿舎・清武ドミトリ
- 宮崎大学医学部附属病院患者付添者等宿泊施設
「宮崎ドライビングスクールpresents THE CROSS ROADS」
- 多用途型トリアージ施設

太陽光発電システム・太陽熱給湯システム

- ☀ 医学部基礎臨床研究棟屋上
- ☀ 附属病院屋上
- ☀ ソーラーカーポート

宮崎大学
ユニバーサルデザインマップ
QRコード



2026年4月1日現在

施設位置図

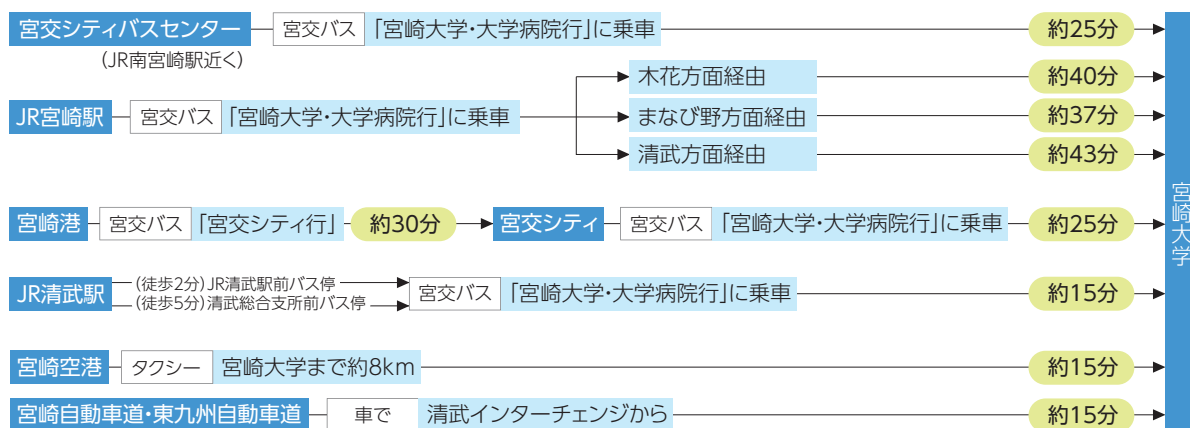
- 宮崎大学 (木花キャンパス)
- 宮崎大学医学部 (清武キャンパス)
- 住吉フィールド (牧場)
- 田野フィールド (演習林)
- 農学部附属フィールド (大納地区)
- 農学部附属フィールド (崎田地区)
- 延岡フィールド (水産実験所)
- 附属小学校・附属中学校
- 附属幼稚園
- 錦本町ひなたキャンパス



問合せ先一覧

問合せ内容	問合せ先	E-mail	電話番号
宮崎大学の総合案内	総務広報課 総務係	soumuka@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2854
広報について	総務広報課 広報係	kouhou@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7114
情報公開について	総務広報課 総務係	soumuka@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2854
授業料納入について	財務課 出納係	suitou@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7122
入試について	入試課	nyushi-t@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7138
就職関係について	共創人材育成課 キャリア支援係	syusyoku@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7141
学生生活支援(奨学金、授業料免除、アルバイト)について	学生支援課 経済支援係	kousei@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7976
証明書発行(在学生、卒業生)について	教育企画課 教育企画係	gakukyo@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7856
職員の採用について	人事課 人事係	ninyo@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7109
学生寄宿舎について	学生支援課 学生支援係	kousei@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7142
留学生の受入について	国際連携課 留学交流係	ryugaku@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7134
産学・地域連携について	産学・地域連携課 産学・地域連携係	sangakurenkei@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7951
外部資金申請関係について	研究推進課 研究推進係	k-jyosei@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7113
外部資金契約経理について	産学・地域連携課 外部資金係	gaibusikin@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7246
公開講座について	共創人材育成課 地域人材育成係	chiikijinzei@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7188
教育学部・大学院教育学研究科の総合案内	教育学部・地域資源創成学部 総務係	edusoumu@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2889
医学部・大学院看護学研究科の総合案内	医学部 総務課 総務係	medsomu@med.miyazaki-u.ac.jp	0985-85-1510
工学部・大学院工学研究科の総合案内	工学部 総務係	kousoumu@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2871
農学部・大学院農学研究科の総合案内	農学部 総務係	nou-soumu@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2875
地域資源創成学部・大学院地域資源創成学研究科の総合案内	教育学部・地域資源創成学部 総務係	region@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7848
大学院農学工学総合研究科の総合案内	工学部 教務・学生支援係 農学工学総合研究科担当	noukou-s@miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7870
大学院医学獣医学総合研究科の総合案内	医学部 医療人育成課 医学教育1係	graduate@med.miyazaki-u.ac.jp	0985-85-9126

宮崎大学までの交通機関



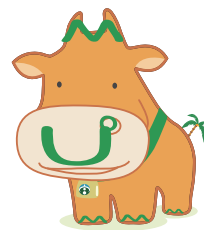
令和8年度(2026年度) 国立大学法人宮崎大学 概要

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
URL <https://www.miyazaki-u.ac.jp/>

[編集発行]

国立大学法人宮崎大学総務広報課
TEL(0985)58-7114 FAX(0985)58-2886

令和8年7月発行



宮崎大学オリジナルキャラクター
「みやだいもうくん」